

平成27年8月20日  
於  
府中市立教育センター

平成27年第8回

府中市教育委員会定例会議事録

府中市教育委員会

平成27年第8回府中市教育委員会定例会議事録

1 開 会 平成27年8月20日(木)

午後1時30分

閉 会 平成27年8月20日(木)

午後5時26分

2 議事録署名員

教育長 浅 沼 昭 夫

委 員 齋 藤 裕 吉

3 出席者

教育長 浅 沼 昭 夫 委 員 崎 山 弘

委 員 齋 藤 裕 吉 委 員 村 越 ひろみ

委 員 松 本 良 幸

4 欠席者

なし

5 出席説明員

教育部長 今 永 昇 文化スポーツ部長 後 藤 廣 史

教育部副参事兼指導室長 文化振興課長 山 本 忠

三田村 裕 ふるさと文化財課長補佐 黒 澤 明 美

総務課長 志 摩 雄 作 生涯学習スポーツ課長 矢ヶ崎 幸 夫

学校施設担当主幹 山 田 英 紀 生涯学習スポーツ課長補佐 宮 崎 誠

総務課長補佐 北 村 均 美術館副館長 須 恵 正 之

学務保健課長 酒 井 利 彦

給食担当主幹 鈴 木 哲 夫

学務保健課長補佐 山 田 晶 子

給食センター整備担当副主幹

大 井 孝 夫

指導室長補佐 古 塩 智 之

統括指導主事 日 野 正 宏

統括指導主事 国 富 尊

指導主事 山 本 勝 敏

指導主事 坂 元 竜 二

指導主事 林 田 孝 子

指導主事 駒 澤 文 泰

6 教育委員会事務局出席者

総務課係長 遠 藤 公巳明

総務課主任 鈴 木 紘 美

## 議 事 日 程

第1 議事録署名員指名について

第2 会期決定について

第3 議 案

第37号議案

平成28年度使用教科用図書の採択について

第4 報告・連絡

- (1) 平成26年度府中市学校給食会事業報告書及び給食費会計決算書について
- (2) 熊野神社古墳北西側の確認調査と現地見学会開催について
- (3) 第22回府中市生涯学習フェスティバルの実施について
- (4) 企画展「マリー・ローランサン」の開催について

第5 その他

第6 教育長報告

第7 教育委員報告

午後1時30分開会

○教育長（浅沼昭夫君） ただいまより、平成27年第8回府中市教育委員会定例会を開会いたします。

\_\_\_\_\_ ◇ \_\_\_\_\_

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第1、議事録署名員指名につきまして、本日の議事録署名員は、私のほか齋藤委員にお願いいたします。

\_\_\_\_\_ ◇ \_\_\_\_\_

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第2、会期の決定でございますけれども、会期は本日1日といたします。

\_\_\_\_\_ ◇ \_\_\_\_\_

◎傍聴許可

○教育長（浅沼昭夫君） 傍聴希望者がおりますので、許可してよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） また、傍聴者については円滑な議事進行のため、議場内における録音及び写真撮影を控えるようお願いするところでございますが、報道関係者から傍聴依頼があった場合においては会議に支障のない範囲で許可してよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、本日教育委員会で審議する内容は、議案が1件、報告・連絡4件の計5件でございます。

今回の議案は教科書採択でございますので、説明及び審議が長時間にわたることが予想されます。そこで、先に報告・連絡、その他教育長報告及び教育委員報告を行い、休憩の後に議案を審議したいと思いますけれども、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

それでは、傍聴の方に申しあげます。府中市教育委員会傍聴人規則により、審議内容への発言や議事進行の妨げとなる行為及び会話は禁止されています。また、議場内における録音及び写真撮影等をご遠慮願います。ただし、報道関係者から傍聴依頼があった場合においては、会議運営に支障のない範囲で録音及び写真撮影を許可しております。傍聴中は静粛にしてください、係員の指示に従い、会議がスムーズに進行できますよう、ご協力をお願いいたします。

なお、本日の第37号議案につきましては、教科書採択の審議にかかる公平性を期するため、参考として中学校用教科書目録掲載の教科書発行者一覧を最終ページに添付した議案をお配りしております。

\_\_\_\_\_ ◇ \_\_\_\_\_

◎平成26年度府中市学校給食会事業報告書及び給食費会計決算書について

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、日程第4、報告・連絡でございますが、報告・連絡（1）について、学務保健課、お願いいたします。

○給食担当主幹（鈴木哲夫君） それでは、お手元の資料1、平成26年度府中市学校給食会事業報告書及び給食費会計決算書に基づきご説明させていただきます。

1ページをお開き願います。事業の概要でございます。平成26年度の学校給食事業につ

きましては、成長期にある児童・生徒の心身の健全な発達を図るとともに、正しい食事のあり方や望ましい食習慣の体得などの教育的狙いをもって、事業の推進と充実に努めてまいりました。

衛生管理につきましては、給食の安全性を確保するため、万全を期すよう努め、また献立の作成につきましては多様な食品を摂取できるよう、食事摂取基準や食品構成などの栄養管理にも十分配慮してバランスのとれた給食となるよう工夫しました。

食材料につきましては、「安全でおいしい給食」を提供するため、例月の給食用食材選定会において、保護者の代表や給食主任の先生方、給食センター職員により慎重に選定を行い、安全・安心で良質な食材の使用に努めました。また、府中産野菜につきましては、給食センター出荷の会や関係部課との意見交換会を開催するなどして使用拡大に努め、ブロッコリー、ホウレンソウ、小松菜など19品目の食材を使用しました。

給食展・大試食会を3年ぶりに開催し、和食2献立の試食や地場産野菜や給食で提供するジャム等の販売、展示・体験コーナーもあり、多くの市民に喜んでいただき、学校給食をご理解いただけるよう努めました。

食育推進事業につきましては、栄養教諭を中心に給食を生きた教材として活用し、食育のさらなる推進に努めました。栄養教諭を始め、栄養士や調理員による学校の授業への参画やPTA主催の試食会への派遣、学校訪問などを通じて、食への関心を高め、理解を深めていただけるよう努めました。

また、職場体験の中学生の受け入れでは、職業に対する関心のみならず、調理現場での体験を通して、食に対する意識の向上にも努めました。

食物アレルギーにつきましては、従来からのアレルギー除去食の対応を引き続き進めるとともに、増加する人数に対応してまいりました。

以上が平成26年度における学校給食事業の概要でございます。今後も学校給食の一層の充実を目指して努力してまいります。

2ページに移りまして、1の実施状況でございますが、市内小学校22校、中学校11校の合計33校のうち、自校調理方式の小学校3校を除き、小学校19校、中学校11校の計30校に給食センターから給食を提供しております。

給食の稼働回数、延べ給食数につきましては記載のとおりでございます。

次に、2の給食費の状況でございますが、保護者の皆様には、給食にかかります経費のうち、食材料費を給食費としてご負担いただいております。給食費は、夏休みの8月を除き、1年を11か月に分け徴収しております。平成26年度の月額については記載のとおりでございます。

給食費会計の歳入歳出につきましては、後ほど給食費会計決算報告におきましてご説明させていただきます。

また、保護者の負担軽減のため、牛乳や調味料について市からの補助金が交付されており、単価、補助率は記載のとおりでございます。

給食費の未納につきましては、各学校のご協力のもと、保護者への未納のお知らせの配付や電話による督促、訪問徴収などを実施し、収入未済額の解消に努めてまいりました。

3ページに移りまして、3の主たる事業内容でございますが、学校給食会の会議の状況、

試食会及び施設見学会につきましては記載のとおりでございます。

4ページに移りまして、4の納入物資登録業者でございますが、給食センターでは適正な契約履行のため、給食の食材料を納入する業者の登録制を採用しております。26年度は52社の登録がございました。

なお、食材別納入登録業者数の総計の欄が106となっておりますが、これは1社が複数の食材別業者に登録したことによるものでございます。また、括弧内は市内業者の内数でございます。

5ページに移りまして、5の給食センターの運営状況でございますが、(1)は衛生管理の状況で、記載の各種検査を実施いたしました。

(2)は施設・設備の整備状況で、備品購入や調理設備等の改修、新たな給食センターに係る状況でございます。

6ページ、7ページに移りまして、(3)は職員の研修会及び講習会などの出席状況で、33講座に延べ275名の職員を派遣し、職員の専門知識や技術の取得などに努めました。

以上が平成26年度府中市学校給食会の事業報告でございます。

続きまして、府中市学校給食会給食費会計決算書に基づきご説明させていただきます。

1ページをお開き願います。初めに、収支総額の状況でございます。

歳入は、予算額9億1,611万6,000円に対しまして、決算額は8億8,826万8,602円で、執行率は97%。歳出は、予算額9億1,611万6,000円に対しまして、決算額は8億8,359万6,845円で、執行率は96.5%でございます。歳入歳出差引額の467万1,757円は、翌年度の歳入に繰り越しをいたします。

2ページをお願いいたします。歳入でございますが、会計科目ごとにご説明させていただきます。

款の1給食費は、予算現額8億4,929万7,000円に対しまして、収入済額は8億2,226万3,918円で、執行率は96.8%でございます。調定額に対する収入率は99%でございます。この給食費の内訳は、児童・生徒、教職員並びに試食会等の納入金と滞納繰越金収入でございます。

次に、款の2の補助金は、予算現額4,676万7,000円に対しまして、収入済額は4,516万5,4561円で、執行率は96.6%でございます。これは、市から経費の一部が補助されるもので、牛乳補助金は1本10円、調味料補助金は給食費月額2.1%以内となっております。

次に、款の3、繰越金は、緊急時の対応などのため、給食材料費として確保していた経費の残額で、前年度よりの繰越金でございます。

次に、款の4の諸収入の預金利子は給食費の預金利子で、雑入は有価物売払収入でございます。給食で使用しました廃油の売上でございます。1リットルにつき15円で売却をいたしました。

歳入合計は、予算現額9億1,611万6,000円に対しまして、収入済額は8億8,826万8,602円でございます。

3ページ、4ページをお開き願います。次に、歳出でございます。

款の1、食材料費は、予算現額9億1,591万2,000円に対しまして、支出済額は

8億8,359万6,845円で、執行率は96.5%でございます。

小学校費は、予算現額5億8,309万3,000円に対しまして、支出済額は5億5,997万4,807円で、執行率は96%でございます。

中学校費は、予算現額3億3,281万9,000円に対しまして、支出済額は3億2,362万2,038円で、執行率は97.2%でございます。

小・中学校の主食購入費は、小学校が年間で米138回、パン40回、麺類12回、中学校が年間で米140回、パン41回、麺類12回の主食購入に要した経費でございます。

牛乳購入費は、小学校が年間が179回、207万9,344本、中学校が年間182回、102万7,521本分でございます。

副食購入費は、肉・魚介類などの副食購入に要した経費でございます。

次に、款2の諸支出金、小学校返還金及び中学校返還金は科目存置でございます。

次に、款3の予備費は充当科目がございませんでしたので、未執行でございます。

歳出合計は、予算現額9億1,611万6,000円に対しまして、支出済額は8億8,359万6,845円で、執行率は96.5%でございます。

なお、5ページは関係資料といたしまして、平成27年5月31日現在の給食費の学校別収納状況でございます。小学校で181名、中学校で131名、合計312名の未納者がございましたが、前年度と比較いたしますと、人数が8名の減、金額が35万2,184円の減となっております。今後も、学校経由による未納のお知らせの送付や専門徴収員による訪問徴収、職員による臨時戸別徴収などを実施し、収入未済額のさらなる解消に努めてまいります。

なお、本件につきましては、今年7月15日に学校給食会監査を開催し、同日の学校給食会理事会で承認をいただいておりますことを、あわせてご報告いたします。また、今後、保護者の皆様に対しましてお知らせをまいります。

説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。何かご質問、ご意見等ございますか。

○委員（崎山 弘君） 資料の一番最後のページの納入状況ですけれども、その四小と武蔵台と住吉が抜けているのは、これは自校給食のところですが、これは納入率100%というふうに理解してよろしいのでしょうか。

○給食担当主幹（鈴木哲夫君） 住吉小のみが未納額ゼロで、四小と武蔵台は未納者がございます。

○教育長（浅沼昭夫君） ほかにいかがでしょうか。

（「なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、報告・連絡（1）について了承をいたします。

\_\_\_\_\_ ◇ \_\_\_\_\_

◎熊野神社古墳北西側の確認調査と現地見学会開催について

○教育長（浅沼昭夫君） 報告・連絡（2）について、ふるさと文化財からお願いします。

○ふるさと文化財課長補佐（黒澤明美君） それでは、ふるさと文化財課から、「熊野神社古墳北西側の確認調査と現地見学会開催について」、資料2に基づきご説明いたします。

現在、国史跡武蔵府中熊野神社古墳の北西側で、保存目的の確認調査を実施しております。

この古墳は、既に国内で最大・最古の上円下方墳として復元・整備され、多くの方々が見学を訪れておりますが、今回の確認調査は資料の案内図にありますように、今回の古墳確認調査範囲と記されている部分を行うもので、その範囲の中に未確認である古墳の墳丘、1段目の北西遺構角側部分、小さな四角が並んでいる部分ですが、そこに切石の破片や地山の固まりなどが見られ、墳丘が残っている可能性があります。

また、明治の初期に廃寺となった弥勒寺の土塀基礎の可能性も考えられる遺構が見つっております。弥勒寺については、詳細は不明ですが、この寺の手がかりが見つかるのではと期待されます。

見学会の日程は8月30日日曜日、午前10時から午後3時、雨天の場合は31日月曜日に順延いたします。

今回の現地見学会は、これらの確認状況など、これまでの確認調査の成果を踏まえ行うもので、この機会で見られない遺構を間近で見られる貴重な見学会ですので、ぜひご覧いただきたいと存じます。

説明は以上となります。

○教育長（浅沼昭夫君） このことについて、何かご質問、ご意見等ございますか。

（「なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、報告・連絡（2）について了承をいたします。



◎第22回府中市生涯学習フェスティバルの実施について

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて、報告・連絡（3）について、生涯学習スポーツ課、お願いします。

○生涯学習スポーツ課長補佐（宮崎 誠君） それでは、生涯学習スポーツ課より、「第22回府中市生涯学習フェスティバルの実施について」、お手元の資料3に基づき報告いたします。

市民の生涯学習への理解を深めるため、9月12日の土曜日及び13日の日曜日の2日間、生涯学習センターにて生涯学習フェスティバルを実施いたします。

詳細につきましては資料のとおりでございますが、東京外国語大学との連携によるイベントを初め、市民による作品提示や発表など、様々な催しを実施いたしますので、ご承知おきくださいますよう、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） 何かご質問、ご意見はございますか。

（「なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 報告・連絡（3）について了承といたします。



◎企画展「マリー・ローランサン」の開催について

○教育長（浅沼昭夫君） 報告・連絡（4）について、美術館、お願いします。

○美術館副館長（須恵正之君） 美術館から、お手元の資料4、チラシに基づき、次回の展覧会についてご報告いたします。

9月12日土曜日から12月20日日曜日まで、企画展「マリー・ローランサン」展を開催いたします。観覧料等は記載のとおりでございます。

この企画展については、広報の一層の効果拡大を期するため、観覧券の前売りをしており  
ます。前売りの観覧料は、団体割引料金に応じて2割引、府中市美術館と府中の森芸術劇場  
で販売しております。

チラシをお開きください。マリー・ローランサンは、20世紀、パリで活躍した画家です。  
詩人アポリネールとの恋愛や亡命生活など波瀾万丈の人生でも知られますが、本展ではパス  
テルカラーとやわらかな形が生み出す彼女独特の造形感覚に注目いたします。初期から晩年  
まで、代表作およそ70点のローランサンが追い求めた造形世界をお楽しみいただきます。

この企画展は、金沢21世紀美術館、浜松市美術館、碧南市藤井達吉現代美術館、そして  
酒田市美術館との共同企画で、企画立案の中心を府中市美術館が行っております。

チラシの裏面をご覧ください。会期中、作家や出品作を分かりやすく説明する恒例の20  
分スライドレクチャーや、担当学芸員がマリー・ローランサンのかわいい造形の探究など、  
ローランサンの画風の変遷を講義する展覧会講座、そして本美術館の藪野館長がフランス、  
パリの絵画とまち並みを解説する講演会を開催いたします。

また、常設展示室では「江戸時代から現代まで」、そして牛島憲之記念館では「牛島憲之名  
作選」を開催いたします。ぜひご覧いただきたく、ご案内いたします。

以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。報告・連絡（4）について何かご質問・ご  
意見はございますか。

（「なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、報告・連絡（4）について了承をいたします。

◇

◎その他

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第5のその他でございますけれども、何かございますか。

（「なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、日程第5を終わります。

◇

◎教育長報告

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第6、教育長報告に移ります。

活動状況については、別紙の「平成27年第8回教育委員会定例会 教育委員会活動報告  
書」のとおりでございます。

なお、この報告書は、平成27年7月11日から8月14日までの活動内容となっております。

私からご報告させていただきます。

これから予定しております教科書採択につきまして、当初421名分、追加で259名分、  
合計680名の署名を記した要望書を1件いただきましたことをご報告いたします。

私からは以上でございます。

◇

◎教育委員報告

○教育長（浅沼昭夫君） 日程第7、教育委員報告に移ります。

活動状況につきましては、別紙のとおりでございます。

まず、崎山委員、お願いします。

○委員(崎山 弘君) では、崎山から報告いたします。

これは教育委員会の正式な行事ではありませんでしたが、8月6日・7日・8日の3日間、府中第四小学校、武蔵台小学校、四谷小学校が実施した日光林間学校に、松本委員とともに自費で同行してまいりました。

主に武蔵台小学校の行程に密着して、子どもたちや先生方と一緒に過ごしました。子どもたち1人1人にとって楽しい経験、初めて見るもの、いつもなら諦めてしまうだろうけれども、初めてできたことなど、友達と一緒にだから、クラスのみんなと一緒にだから、先生に支えられているからできるという体験を幾つも繰り返している中で、友達や先生方、保護者、宿の方々に対して自然に感謝の気持ちが湧いてきている様子が間近にうかがえました。自分にとっても楽しい3日間でした。

また、先ほどの報告、締め切りが間に合わなかったのですが、8月14日金曜日、府中市郷土の森博物館に行ってまいりました。特別展あしもとネーチャーワールド、夏の生きもの甲子園、企画展、隕石展「宇宙からの贈り物」を中心に拝見してまいりました。生きもの甲子園では、子どもたちにも分かりやすく、府中市の自然が展示されていました。隕石展では、普段見ることのできない隕石の見学とともに、新しい知識を獲得できて、とても楽しめました。

以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) ありがとうございます。

齋藤委員、お願いします。

○委員(齋藤裕吉君) 活動報告につきましては別紙のとおりでございますけれども、多くの時間を市の中学校の教科書採択のための準備に当てる形となりました。

それで、7月25日土曜日ですけれども、府中市美術館のぱれたんリゾートに参加をいたしました。子どもたちが楽しみながら美術に親しめるような、そういう企画が今年度もなされておまして、大変おもしろい美術展になったなと思っております。

見るだけではなくして、学校の展覧会などにも取り入れることができそうな、そういうおもしろい展示の方法が見られて、子どもたちにも参考になったのではないかなと思います。見るための美術館、これは基本かもしれませんけれども、これに加えて、美しいものにかかわることができる、直接子どもたちが、市民がかかわることができるような、そういう美術館企画というものは大変意味があるのではないかと、このぱれたんリゾートに参加して感じることができました。

私からは以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) ありがとうございます。

村越委員、お願いします。

○委員(村越ひろみ君) 報告書にもありますように、8月8日土曜日、府中市平和の集い2015の講演会と映画会に伺いました。

「一枚のはがき」という映画をちょっとご紹介しますと、この映画は、戦争末期に徴集された兵士100人のうち、94人が戦死してしまい、6人が生きて帰ってきた、その生死を

分けたのは、上官が彼らの任務先を決めるためのくじだった。人の命がくじに左右され、生き残った兵士と、夫の死によって立て続けに家族を失った、その兵士の妻とが1枚のはがきによってめぐり合い、お互いの全てを失ってもたくましく生きる姿が描かれたものでした。

この作品の監督さんは、生き残った6人の1人で、ご自身の体験をもとにつくられたもので、国内外の映画祭でも数々の荣誉に輝く日本最高齢の監督さんでした。体験者ならではの目線で描かれた作品は感動いっぱい、笑いあり、涙ありのものでした。

戦後70年という節目の年、会場には多くの老若男女の姿がありました。この講演会と映画祭に参加して、改めて戦争の怖さ、愚かさ、空しさ、戦争がもたらした人々の苦難を思うと、今後二度とこのようなことがあってはならないと改めて思いました。

また、教科書採択に当たっては、去年は小学校だったのですが、昨年夏は我が家の一大事で、ちょっと事情があって採択を欠席してしまったことを申し訳なく思います。今回は中学校の採択ということで、一生懸命教科書を見させていただきました。後ほどよろしくをお願いします。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。

それでは、松本委員、お願いします。

○委員（松本良幸君） それでは、松本よりご報告させていただきます。

今回は、小学校の道徳指導について感じたことを少しお話しさせていただきます。私は、小・中学校で行われている道徳公開講座や授業参観にたびたび参加させていただいているのですが、その様子は、先生方が指導資料を準備し、丁寧に子どもたちを導く、とてもすばらしい授業となっています。

ただ、少し感じるのは、そのモデルが昔の偉人であったり、とても立派な考えを持った保護者がいる家庭が舞台であったりすることが多く、自分がどう行動すべきか、なぜそうすべきかを考えるというより、何か国語の授業に近い、登場人物の心情を読解したり、先生はどのような回答を望んでいるのかを考えてしまう子どもも多いのではと、少々意地悪な想像をしてしまうときがあります。

先日、小学校3年生の給食風景を見学する機会があったのですが、早々に食べ終わった児童が教室内を歩き回ったりふざけ合ったりする状況を先生が注意をしつつも、なかなかおさまらない場面が見られました。

身近なところで存在する集団活動のルールについて、みんなでルールを守ろうと、大上段から目標を掲げる前に、なぜルールがあるのだろう、無人島でひとりぼっちの生活をしていたらルールをつくる必要があるのかなど、根本的な部分をもう少ししっかり意識した上で上位のステップに進む手法もあるのではと感じました。

私も含め、大人の社会でもこの基本ができていない方や自分に対して甘い基準で運用してしまう方が非常に多いように思いますので、子どもたちの見本になれるよう行動をしていきたいと思いました。

また、蛇足になりますが、消防団OBの私としても、学校での整列風景で、号令のかけ方や、その目的について理解できていない先生が多いことはいつも気になっているところです。

以上で私からの報告を終わります。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。

それでは、ここで休憩をとりまして、再開後に議案の審議をいたします。  
5分ぐらいの休憩にしたいと思いますけれども、よろしいでしょうか。  
それでは、2時10分から再開するというので、それまで休憩といたします。

◇  
休憩午後2時5分 再開午後2時10分  
◇

◎第37号議案 平成28年度使用教科用図書採択について

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、ただいまより定例会を再開いたします。

日程第3、議案の審議に入ります。

第37号議案の朗読をお願いします。

（事務局朗読）

○教育長（浅沼昭夫君） これから審議に入りますが、審議に当たりまして、私から採択の公正確保について一言申しあげたいことがあります。

教科書の採択に関する過度な、行き過ぎた宣伝行為等について、文部科学省、東京都教育委員会から通知されているところです。府中市教育委員会におきましても、過大な宣伝行為等を受けることがないように、各学校に周知し、厳正に扱ってきたところです。

しかしながら、他地区ではありますが、一部教科書の発行者により過大な宣伝行為等があったことが報道されており、このような行為があったことにつきましては大変残念なことであります。

教科書は、義務教育段階においては、税金によって無償で給付されるものです。府中市教育委員会といたしましては、改めまして、どの教科書が府中市の子どもたちにとって最もよい学びにつながるのかという教科書の内容で選択することをここで確認したいと思います。いかがでしょうか。よろしく願いいたします。

では、説明をお願いしますが、今回の資料は大変多くなっています。

初めに、教科書採択の概要を説明してもらい、その後、個別に報告を受けたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 初めに、採択の概要の説明をお願いします。

○統括指導主事（国富 尊君） それでは、平成28年度使用教科用図書採択の概要につきまして説明いたします。

本年度の教科書採択にかかわる事務につきましては、去る4月16日に開催された教育委員会定例会におきまして決定いただきました平成28年度使用教科用図書採択要綱に基づき、作業を進めてまいりました。

本年度採択いただく教科書は小学校用、中学校用、特別支援学級用の3種類ありますが、このうち小学校用教科書につきましては、義務教育小学校の教科用図書無償措置に関する法律第14条の規定に基づき、平成26年度に27年度から30年度まで使用する教科書についてご審議していただいておりますので、今年度につきましては、現在使用している教科書をそのまま採択していただくことになります。

次に、中学校用教科書につきましては、今回、採択替えを行います。このため、平成28

年度使用教科用図書採択要綱に基づき、教科ごとに教科用図書調査研究委員会、教科用図書選定資料作成委員会を構成し、教科書の調査研究及び選定資料の作成を行いました。

今回の採択に当たりましては、教科用図書選定資料や、委員の皆様方にお届けしてごきます教科書の見本本をご覧になってのご意見などに基づいてご審議いただき、採択していただくこととなります。後ほど教科ごとに説明いたしますので、よろしくお願いいたします。

また、教科書の発行に関する臨時措置法第5条に基づき、教科書展示会を6月19日から7月3日の期間で開催しました。期間中、116名の方にご来場いただき、既にご覧いただきましたように、136件のアンケートをいただきました。

今年度まで使用している教科書については、学校の教員からは特段の意見はいただいておりません。平成23年度に採択をしたものですが、適正な選択が行われたものと考えております。

最後に、特別支援学級用教科書ですが、学校教育法附則第9条により、文部科学省の検定を経た教科書以外の著書の使用が認められており、また毎年採択替えができることとなっております。このことから、中学校用教科書と同様、小学校特別支援学級用教科用図書調査研究委員会、中学校特別支援学級用教科用図書調査研究委員会、教科用図書検定資料作成委員会を構成し、教科書の調査研究及び選定資料の作成を行いました。

特別支援学級用教科書につきましては、この教科書検定資料等に基づいてご審議いただき、採択していただくこととなります。この教科書検定資料につきましても、後ほど説明いたします。

平成28年度使用教科用図書採択の概要説明は以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） ただいま、本年度の教科書採択の概要説明がありました。

まず、小学校用教科書ですが、規定によりまして、平成30年度まで同一の教科書を採択することとなっております。よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、平成28年度使用小学校用教科書につきましては、平成27年度使用教科書と同様といたします。

次に、中学校用教科書です。今回は、採択替えにつき、平成28年度から使用する教科書について、平成28年度使用教科用図書採択要綱に基づき、教科別に教科用図書調査研究委員会、教科用図書選定資料作成委員会を構成し、教科書の調査研究及び選定資料を作成したとの報告でございます。この点についてはよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） なお、議案資料3ページの中学校採択教科書一覧は、空欄となっておりますが、採択審議後に加筆するようにお願いをいたします。

それでは、これから採択審議及び採択を行いますけれども、本日の進行についてですが、教科ごとに報告及び質疑を行った後、委員の皆様から意見を述べていただき、採択をしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、そのようにいたします。

採択の順番ですが、資料の順に、国語、書写、社会地理的分野、歴史的分野、公民的分野、

地図、数学、理科、音楽一般、音楽器楽、美術、保健体育、技術家庭技術分野、家庭分野、外国語の順番で行いますが、よろしいですか。

(「はい」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、初めに、国語の教科書について行います。

説明をお願いします。

○指導主事(林田孝子君) 国語について報告します。

教科書の発行者は5社です。それぞれ、主な特徴について説明します。

まず、東京書籍です。各単元で、文化論、科学論、ドキュメンタリー等、様々な文章を読ませる学習を多く取り入れている。また、文法や読解の知識を学年ごとにまとめ、段階的に取り上げている。単元や領域が、3年間を通し基礎から応用に発展するように整理されている。例えば、議論をする力は、質問する、反論する、合意を形成するという段階で、言葉の力を高めていく設定となっている。ビブリオバトルなど体験的な学習が取り入れられている。また、時事的な問題が取り上げられており、生徒が主体的に考えようとする意欲につながる。以上のような報告を受けています。

次に、学校図書です。きずな、生命、群像、伝統、世界といった3年間を通して共通したテーマで単元が構成され、それぞれテーマに沿った教材が系統性を踏まえて配置されている。既習事項を生かしながら教材を学習することができる。話すこと、聞くことの単元では、話し合いの方法の例示や活動の進め方の手順が示してあり、教科書を参考に生徒が活動しやすいよう配慮されている。また、生徒の日常にかかわる内容を取り上げ、生徒の関心を高める工夫をしている。脚注部分に文章に沿った課題が設けられていて、読みながら考える手助けとなっている。以上のような報告を受けています。

次に、三省堂です。つけたい力を確認できる一覧があり、目的を明確にして学習することができる。また、知識の定着を図る学習と発展させる学習の2部構成となっており、学習のつながりが分かりやすい。巻末の考える広場は、話し合いの方法やインタビューの仕方などが一覧となっており、生徒の活動に便利である。また、即興劇にチャレンジなど生徒の表現の幅を広げる取組がある。古典作品では、用語の解説が詳しく、生徒は関心を持って学習することができる。以上のような報告を受けています。

次に、教育出版です。話すこと・聞くこと・書くことの言語活動を伴う教材での説明が丁寧であり、生徒が活動しやすくなっている。また、読解の際に、考える視点が脚注に示されており、課題意識を持って読むことができる。文法の導入の例文や話すことの学習では、身近にある話題を取り上げ、生徒の興味・関心を引き出している。みちしるべとして学習の手引きがあり、課題解決の道筋が詳しく丁寧に説明されている。また、2・3年生では共同教材が充実するなど、広がりのある学習活動ができる。以上のような報告を受けています。

最後に、光村図書です。発達段階に応じて、基礎的・基本的な内容が定着するよう、習得・活用を繰り返しながら学べる配慮がされている。新出漢字が用例とともに掲載されるなど、理解の定着が図れるような工夫がされている。また、読書案内等で多くの書籍を紹介し、生徒の読書への意欲を高めるとともに、物の見方や考え方を広げ、深めることができる。各単元で目標が提示され、課題をつかむための学習の窓が設定されている。学んだことを次の学習につなげるポイントも明記し、主体的に学習できる。以上のような報告を受けています。

○教育長（浅沼昭夫君） ただいまの報告につきまして、ご質問はありますか。

（「なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） そのほか、よろしいでしょうか。

それでは、採択の審議に移ります。委員の皆さんのご意見をお願いいたします。

最初に、崎山委員からお願いいたします。

○委員（崎山 弘君） 国語は、読んで正確に理解する能力と適切に表現して伝える能力、正しく聞く能力をつけるとともに、思考力や想像力も養って、理科、社会、外国語はもとより、芸術科目においても知的活動の基本となる言語感覚を豊かにする科目だと考えられますが、まずは読むことが最も大切だと思います。今回、芥川賞を受賞して話題となった芸人の又吉直樹さんも、中学生のとき、太宰治や芥川龍之介の小説に共感ができてから、本はずっと読んでいますと言っておられます。子どもたちに文章に親しんでもらうという意味で、読む力をつけることが重要です。

東京都教育委員会が作成した資料によると、学校図書は64%を筆頭に、全ての教科書も読むことに重きを置いた単元がおよそ50%以上と、この点に関してはいずれの教科書も同等でした。それぞれの会社の教科書を比較しやすくするために、いずれの教科書でも取り上げられている文学作品があるかどうか確認したところ、中学校1年生でヘルマンヘッセの『少年の日の思い出』、中学生2年生で太宰治の『走れメロス』が全ての教科書で使われていました。

ここでは、ヘルマンヘッセの『少年の日の思い出』を主に検討することにいたします。

これは、主人公が子どものころに昆虫の蝶の採取に夢中であったことを思い出として語る小説です。5社を比較して、学校図書だけが蝶の名前、例えば「ワモンキシタバ」を平仮名記載していました。昆虫や哺乳類など生物は文章の中では片仮名表記をすることが一般的だと思います。違和感を覚えました。また、教育出版では、初出の新出漢字にルビが付いています。生徒が各自で書き込むのであればやむを得ないと思いますが、最初からルビをつけるのは教科書として適切かどうか、疑問があると思いますし、府中市内の中学校の先生もこの点を指摘されておりました。

また、いずれの教科書でも、作品の後で、「てびき」、「学びの道しるべ」などの表題で、学習を支援するページがあります。そこで、この作品を深く読み込んで、登場人物の心情や作者の意図などを理解することが求められています。

この小説の最後の部分に、少年が大好きだった蝶を、1つ1つ粉々に潰す場面を捉えて、「なぜだろう」、「心情を考えてみよう」などの問いかけがいずれの教科書でも記載されているわけですが、東京書籍と光村図書では、「一つ一つ」や「粉々に」など、文章に含まれている表現を丁寧に捉えて考えてみよう、ヒントが与えられています。ヒントが要らない人もいるとは思いますが、教科書での勉強はテストではありません。ヒントをもらった上でであっても、自分で読んで理解できたという経験をすることが重要であり、とても好ましい対応だと思います。スモールステップに分解して最終目標に到達するという姿勢がよく示されています。よって、私は、この東京書籍か光村図書のいずれかを候補といたしました。

この2社を比較すると、挿絵に差があります。明らかに光村図書の挿絵は、少年の心情を理解することを助けるような場面を選んで描かれています。小説の情景描写としてふさわし

い挿絵です。2年生の『走れメロス』を見ても、光村図書の挿絵は作品の理解を助けてくれる表現となっています。よって、私は光村図書が好ましいと判断いたしました。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。

それでは、続いて齋藤委員、お願いいたします。

○委員（齋藤裕吉君） まず、最初に、各社で共通してよいと思われる点を、一言お話しさせていただきたいと思うのですが、各社とも大変よく工夫をされていて、取り上げている教材、編集の仕方、なかなかすばらしいと思いました。そうした中で、取り上げる教材で、各社共通する教材というの多いなということも同時に感じました。

さらに、古典などの伝統的な言語文化にかかわる教材、この一部が、小学校でも伝統的な言語文化にかかわる教材が多く取り上げられるようになってきたわけですが、それに重なるものをどのように取り上げるか、中学校らしくどのように取り上げて指導するかという部分が1つ課題ではないかと思いました。例えば、『竹取物語』とか『枕草子』とか、こういったふうな教材ですね。

各社について、簡単に私が感じましたことをまず述べてみたいと思いますけれども、東京書籍につきましては、例えば東日本大震災などの近年のニュースとか出来事なども取り上げて、それと身近な問題として興味・関心を引き出す、そのような工夫や言語活動が工夫されていると思いました。

学校図書につきましては、1年生の表紙の裏が桜の絵だけとか、ほかにも写真だけのページがあるというように、非常にユニークな構成なども見られると思いました。

そして、また学びの窓のコーナーには解答記入欄というのもあって、課題解決的な学習もできそうであるなと思いました。

次に、三省堂ですけれども、つけたい力ということを確認できる一覧があるなど、学習の目当てを明確にできるという、そのような工夫がなされていると思いました。

教材の扱い方では、先ほど申しあげた『竹取物語』、これの最後の部分が現代語で説明されているわけですが、つまり不老不死の薬を富士山で燃やしてしまったという部分、非常におもしろいと思いますが、そういったところは原文で読ませたいというところがあったりします。それから太宰治の解説では、私が受け取るころでは、本質的にはかなりニヒルな側面が多いのではないかと思っているのですが、そういった面にあまり触れられていないなど、その取り上げ方についてどうなのかなと思うところがありました。

それから、教育出版につきましては、漢字一覧というもので、小学校6年のものを取り上げて、筆順入りで書かれているなど、小学校とのつながりも意識している編成になっておりました。

また、巻末の言葉の自習室という部分では、ここは分量が大変多くて、発展的な学習にも対応できる部分だというふうに思いました。けれども、読書案内がすこし少ないなという印象を受けました。

そして、表紙の裏の部分ですけれども、大きく「言葉が世界と結ぶ」というふうに、これは1年生の教科書、表紙裏に「言葉は世界で結ぶ」というふうに大書されて始まっているわけですが、「言葉が世界を」ではないかなと感じました。何度読んでも、私はそう言い直しながら読んでしまいました。ちなみに、2年生は「言葉が世界をあらわす」、3年生では

「言葉が世界をつくる」というのですね。1年から3年までこういうキーワードで押さえていくというのは、流れとしては大変よいと思いました。

次に、光村図書ですけれども、発達段階において、基礎的・基本的な内容が定着するように、習得したことを活用するという形の学習が繰り返されるような配慮がされておりました。巻末の漢字一覧では、小学校で既に習った既習の漢字、これを筆順入りで取り上げて、その定着を図るなど、小・中連携の意図がはっきり感じられるというふうに思いました。それから、東日本大震災にかかわる教材とか、先ほど申しあげた、小学校と重なる『竹取物語』というような教材については、初めの部分と真ん中の部分と終わりの部分、ここは原文で示して、古典を皆さんで触れられるような扱いになっているなど、古典から現代文まで教材内容も構成が適切であると思いました。それから、読書案内については、紹介されている図書も多かったと思いますし、例えば大江健三郎氏が語る読書クラブなど、発展読書にかかわる教材が充実していると思いました。

このようにして各社を外観し、結論としまして、私は光村図書を推したいというふうに思います。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。

それでは、村越委員、お願いします。

○委員（村越ひろみ君） 私も結論を言いますと、光村図書がよいと思います。崎山委員も齋藤委員も詳しくおっしゃられている中で、やはり読書がとても大事だと思いますので、読書案内をしっかりといただいている光村図書を推したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続きまして、松本委員お願いします。

○委員（松本良幸君） 私も光村図書の教科書を推薦いたします。

どの教科書も、色使いや写真、イラスト等で工夫を凝らし、とても使いやすく編集されていると思いましたが、光村図書は文章や解説、新出漢字の確認などがバランスよく配置され、文字サイズも適切で、より分かりやすさを感じました。よって、私も光村図書の教科書を推薦いたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 最後に、浅沼ですけれども、どの教科書も取り上げた良質な作品あるいは脚注、新出漢字など対応の指導に供するように工夫がなされているというふうに感じました。その中で、私は光村図書を採用したいと思います。

その理由ですが、全体的な編集、つくりや配置が極めて良好である。先ほども指摘がございましたけれども、例えば読書案内のページなのですが、その中でジャンル別に示され、その量も豊富で洗練されており、国語の力をつける読書に誘う点で優れていると感じました。また、記録の仕方やスピーチ、情報の集め方など、書くこと、あるいは話すこと・聞くことなどに関する言語活動の具体例が分かりやすく示されていました。それから、3学年とも巻末に文学的文章と説明文的文章に関する資料が織り込まれていまして、日頃の学習活動で参照できる工夫がなされていました。

最後に、裏表紙の見開きに、「いろいろの言葉」として、色の名前の表現が示されていますし、単元の間には季節のしおり、俳句など、四季折々のページが設定され、我が国の季節の多彩な移り変わりや国語の豊かな表現を関連づけているという点で、光村図書を採択したい

と思いました。

以上であります。

それでは、結果なのですけれども、国語につきましては、全会一致で光村図書を採択するということによろしゅうございますか。

(「はい」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、光村図書を採択したいと思います。

続きまして、書写の教科書です。

説明をお願いします。

○指導主事(林田孝子君) 国語、書写について報告します。

教科書の発行者は5社です。それぞれの主な特徴について説明します。

まず、東京書籍です。小学校の復習から始まり、楷書、行書、仮名と、楷書、行書の調和が適切に構成されている。また、硬筆の資料が多様である。常用漢字の楷書と行書の両書体を資料に掲載し、比較できる。本時の目標から自分の課題を確認し、生活の中で課題に取り組む設定になっている。教科書に直接書き込む部分がある。手紙・はがき・ポスター等、生活の中で生かす書写を意識した教科書になっている。以上のような報告を受けています。

次に、学校図書です。2ページ見開きになっているとともに、学習の進め方が系統立てて示されており、見やすくなっている。見開きの手本、書き初め用の手本など、半紙や書初用紙の実物大のものが準備されている。学年が進んでも単元構成が同じになっていることが、発展的な内容を理解しやすくする配慮となっている。以上のような報告を受けています。

次に、三省堂です。狙いはページの冒頭に、絵本、作品例の説明はポイントのみ示されており、簡潔である。見開きで1単位時間の扱いになっており、目標が明確に示されている。また、書き込みは自己評価に活用できる。全体的に文字が大きく分かりやすく、楷書、行書とも手本の数も適切で、学習を進めやすい。以上のような報告を受けています。

次に、教育出版です。毛筆、楷書の基本転換と筆使いの解説が丁寧で理解しやすい。また、硬筆、毛筆、楷書、行書、漢字を相互に関連づけながらまとめてある。考えよう、生かそう、振り返ろうの学習展開で、課題解決ができるよう配慮されている。ページの構成は、見開きで1単位時間の扱いになるよう工夫されており、文字の色の違いや数字で学習過程が分かりやすく示され、学習が進めやすい。硬筆の基本としての毛筆書写指導や、学習したことを日常に生かすなど、指導の視点がはっきりしている。以上のような報告を受けています。

最後に、光村図書です。楷書・行書・漢字・仮名まじりが発達段階に合わせて発展しており、系統性が適切である。ページの構成は、見開きで1単位時間の扱いになるように工夫し、自己評価を記入し、学習が進めやすく配慮されている。コラムや発展のページを通じて、文字の歴史に多く触れている。資料編は、漢字の楷書・行書を対照させた手本や、ほぼ実物大の書き初め手本が巻末にまとめられている。以上のような報告を受けています。

以上でございます。

○教育長(浅沼昭夫君) ただいまの説明につきまして、ご質問はありますか。

(「なし」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) そのほか、何かございますか。

(「なし」の声あり)

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、採択の審議に移ります。

委員の皆さんのご意見をお願いいたします。

それでは、齋藤委員からお願いできますか。

○委員（齋藤裕吉君） それでは、意見を述べさせていただきます。

各社を見まして、共通して言えると思いますことは、小学校からのつながりや系統性というものをどの教科書も十分に考慮しているというようなことは、印象として残りました。それから、硬筆・毛筆の関連ですね。現場では硬・毛関連と言っているようですが、これが十分に意図された編集になっていたということです。それから、どの教科書も書き込みのページが設けられているということですね。そういった共通点があったと思います。

それから、各社ごとに私が受けとめた特徴というのでしょうか。これをちょっと述べてみたいと思いますけれども、東京書籍については、判が少し大きめで横幅があります。これが便利か、そうでないか、その辺は使い方次第だろうとは思いますが。それから、始筆・送筆・終筆という筆使い、これはトン・スー・ピタというふうな言葉で押さえるなど、小学校での学習を踏まえた内容が見られます。そして、また巻末には常用漢字の楷書と行書の両書体を資料として掲載していて、活用できそうだと思いますが、本文の中でもっと楷書と行書の関連を詳しく扱ってほしいという印象を持ちました。

次に、学校図書ですけれども、楷書の教材が少し多めかなという印象を受けました。それから、九成宮醴泉銘という古典があり、これの臨書をやってみようと、発展教材として考えられているわけですが、これは特徴的だと思います。しかしながら、中学校では基本的には扱わない、芸術書道にかかわる内容なのではないかなと、この教材は良し悪しがあるだろうと思いました。

次に、三省堂ですけれども、課題を考えよう、話し合おうと投げかけて、学習の目当てを明確にするという工夫がなされていると思います。それから、筆使いの部分が写真入りでとても分かりやすいなと思いました。また、行書の基本は早く書くことにあり、早く書くための行書を意識させるのはよいのですけれども、例えば生きるという、「生」という字を3秒で書いてみよう、2秒で書いてみよう、1秒で書いてみようという試し書きをする部分がありまして、1秒で書かせるとはどうかなと、かえって雑になるのではないかなというようなことを少し思いました。行書というのは雑に書いてよいという、そういう意識を持たせてはいけないとは思いますが。

それから、教育出版ですが、小学校の復習から始まって、楷書から行書と進む、その系統性が明確に感じられました。そして、また学習目標から始まって、考えよう・生かそう・振り返ろうというように、課題解決的な学習の展開が意図されていると思います。さらに、硬筆の基本としての毛筆、硬筆に生かす毛筆というようなことや学習したことを日常に生かすというような視点がはっきりとしていると思いました。

それから、光村図書ですが、小学校の復習から始まって、発達段階に配慮された教材となっておりますけれども、印象としては、楷書の教材がすこし少ないかなと思いました。見開きで1単位時間の扱いになっていたり、自己評価が記入できるなどの工夫は見られました。

このようなことで、各社それぞれの特徴があるわけですが、私としましては総合的に判断いたしまして、教育出版を推したいというふうに考えます。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続いて、村越委員、お願いできますか。

○委員（村越ひろみ君） 私も5社の教科書を見させていただいて、どの教科書もお手本が実物大だったりとか、しっかり書く順序、筆の持ち方とか説明があってよかったと思うのですけれども、その中でも、教育出版は、初めのページに、その目的に合わせて書こうという導入があって、目的に合わせた、その紙とかペンの選び方、筆の選び方、また用途をきちんと示しているのがよいと思いました。また、筆や鉛筆、ボールペンの持ち方まで、指の位置まで詳細に説明されていて、とても分かりやすくよかったと思いますので、教育出版を推したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続いて松本委員、お願いします。

○委員（松本良幸君） どの教科書も、美しい文字見本であるとか、身近な生活で文字を書く場面を想定した項目が編集されていて、実践的にも役立つ教科になっていました。

その中でも、毛筆の見本が、大きな文字で、筆使いのポイントがとても分かりやすく感じた教育出版を、私は推薦したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） 私は、書写は光村図書を採用したいと思います。これは、小学校でも光村図書を使っているということで、小学校での学習を引き続いて使用する際に、同様の編集方針あるいは筆使いなどについて一貫したほうが中学校の生徒にとって使いやすいのかなという考え方があります。

また、その特徴も、筆の毛先の向きの動きの説明が、写真やイラストも必要に応じて使われておりまして、極めて分かりやすく表示され、使いやすい教科書だなと感じました。

ほかにもございますけれども、筆順表示なども分かりやすかったということで、私は光村図書を採択したいと思います。

以上です。

続いて、崎山委員、お願いします。

○委員（崎山 弘君） 私は、今でも鉛筆の持ち方を間違えていますし、子どものころから毛筆も、硬筆も苦手で、嫌いな科目ではありました。ただ、本当に専門的なことに関しては、今、国語の先生だった齋藤先生が言われたとおりのことなのだろうと理解はできました。

私としましては、教科書は、ほとんどの教科書が見開きで書かれているわけですが、この見開きでのまとまり感が好ましく思えた教育出版がよいというふうに考えました。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、国語の書写につきましては教育出版が多数ということで、この教科書を採択したいと思います。

続きまして、社会地理的分野の説明をお願いします。

○指導主事（山本勝敏君） 社会の地理的分野についてご報告いたします。

教科書の発行者は4社です。それぞれの主な特徴についてご説明いたします。

まず、東京書籍です。各単元の最初に、人々の暮らしについて紹介されており、学習する地域への生徒の興味・関心を高めやすい。資料を大きく豊富に掲載し、生徒が効果的に学習できるように配慮している。地理にアクセス、地理スキルアップを設け、課題解決に必要な知識や技能を習得するための工夫がされている。地理・歴史・公民、それぞれの関連を図る

ようなテーマを扱っており、公民的資質を育成するための工夫がされている。以上のような報告を受けております。

次に、教育出版です。教科書の巻頭に、視覚障害のある人のための地図を紹介し、共生社会への関心を高めている。見開き1単位時間扱いで構成されており、学習課題と振り返りが徹底されるなど、生徒の理解を深める工夫がされている。世界及び日本の地理学習の終わりに地域調査を設定し、調査を行う際の視点や方法、まとめ方等を身につけることができるよう配慮されている。読む・聞くから考える、そして話す・書くという言語活動に取り組む方法が具体的に提示されている。以上のような報告を受けております。

次に、帝国書院です。全編にわたり歴史的な背景や影響が分かるように、因果関係を踏まえた上で具体的な例を上げながら、分かりやすく記述されている。資料の読み取りのポイントを示した資料活用が設けられ、活用を促している。単元の最初に学習課題、最後に説明しよのコーナーを設け、言語活動を促す工夫がされている。地域調査の単元では、調査テーマの決め方、調査手順、必要な技能が具体的に示され、また地域学習で練馬区を扱っており、同じ東京都として技能を習得しやすくなっている。以上のような報告を受けております。

最後に、日本文教出版です。地理の学習で習得すべき基礎的・基本的事項が盛り込まれており、適切である。生徒は、一読することで学習内容が理解できるような記述がされている。また、地理的トピックスを多く盛り込み、地域の特色を考える配慮がある。地理の基礎的なスキルを磨くためのコラムが設定されている。また、言語活動コーナーを設けて、地域的特色の理解を深める工夫がされている。家庭学習を意識して、生徒がみずから学習することができるよう工夫されている。

地理的分野については、以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） ご質問はありますか。

（「なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） そのほかはよろしいですか。

それでは、採択の審議に移ります。

皆様のご意見をお願いいたします。

今度は、村越委員からお願いできますか。

○委員（村越ひろみ君） 今、4社のそれぞれの説明がありましたように、本当にどの教科書もそれぞれ資料も豊富で、レイアウトもそれぞれに工夫されていて、すばらしい教科書だと思いました。その中で、私は帝国書院を推したいと思います。

理由としては、単元ごとに学習課題が挙げられ、確認しよう、説明しようという項目で最後、学習の振り返りができ、生徒が考えて言葉で説明するというスキルが身につくのではないかと思います。写真も大きく、レイアウトも見やすく、資料も充実していると思いました。調査研究資料の先生方の意見を見ても、地域の今の姿や背景が分かる本文や豊富な資料、地域的特色を捉えることのできる多面的・多角的な課題設定があり、また地域学習で練馬区を扱っているということは、同じ東京都として技能を習得しやすい面がある。また、生徒の学びやすさや教師の指導のしやすさという点で優れているという声もありましたので、帝国書院を薦めたいと思いました。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、次、松本委員、お願いします。

○委員（松本良幸君） 私は、帝国書院と東京書籍が見やすいと感じました。

比較対照のポイントとして、生徒たちが取り組むであろう地域の調査の場所で都内の例が取り上げられており、府中市の指導教科書としてはより適しているのではというふうに関じ、私は帝国書院を推薦いたします。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、浅沼ですけれども、私も既に話が出ていますが、帝国書院の地理を採択したいなと思います。

その理由なのですけれども、地図帳との関連もあるのですが、極めてその地図の色合いというものが優れています。

それから、先ほど説明にありましたが、身近な地域の調査で、唯一東京都練馬区を取り上げているということ、あるいは府中市にもかつて火山灰が降ったという、富士山の噴火につきましてコラムで取り上げられている等々、どこを選ぶかといったら、私は帝国書院がよいと思いました。

以上です。

続きまして、崎山委員、お願いします。

○委員（崎山 弘君） 私も全ての教科書を拝見した中で、皆さんも同じことを指摘されていますが、身近な地域の調査という学習項目があるのですが、題材として取り上げられているのが、東京書籍は静岡県静岡市、教育出版は愛知県名古屋市、日本文教出版が愛知県小牧市であるのに対して、帝国書院は東京都練馬区です。帝国書院が選んだ練馬区が、このまちの生活圏に近く、子どもたちから見て親しみやすく理解しやすいというふうに関じました。そこで、私も帝国書院を教科書として推薦したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、齋藤委員、お願いします。

○委員（齋藤裕吉君） 各社大変工夫をしていたり、特徴がある部分があったりして、どれをとるかというのは、なかなか考えさせられたわけですけれども、結論を申しますと、私も帝国書院がよいと思いました。

内容を多面的・多角的に学ぶ。そういうことによって思考力が高められるというふうな工夫がされているということと、それから領土問題について、これは各社、基本的な観点は共通でありまして、4ページ以上を使って各社とも説明をしているわけですけれども、帝国書院につきましては、その歴史的な変遷が一番分かりやすいと思いました。戦前と戦後だけの比較ではなくして、もうちょっと前からの歴史的な流れというものなども分かるような記載になっておりました。そのようなことで帝国書院を推したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、地理的分野は帝国書院ということで、全会一致ということを確認してよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、帝国書院を採択したいと思います。

続きまして、社会科歴史的な分野の教科書の説明をお願いします。

○指導主事（山本勝敏君） 社会の歴史的な分野について報告いたします。

教科書の発行者は8社です。それぞれの主な特徴についてご説明いたします。

まず、東京書籍です。各単元の導入部に、生徒の興味・関心を引き出すための資料が用意されている。本文を補う資料は分かりやすく、人物紹介も興味を引く内容になっている。敬

体を用いており読みやすい。見開き2ページに学習課題と確認が設けられ、見通しを持ったリ振り返り学習をしたりしやすい構成になっている。また、深めようでは時代背景をつかみやすく構成されており、思考力をつけるよう配慮されている。毎時間に時代スケールが示され、学習している時代を確認できる。以上のような報告を受けております。

次に、教育出版です。近代を2つに分け、7つの大単元で構成されている。毎時間に記載スケールが示され、学習する時代を視覚的につかみやすい。人物から歴史を探ろうというテーマ学習が豊富である。中学生などのキャラクターによって、発問や気づきの手がかりが示されている。見開き2ページには、学習内容を象徴するようなタイトルがつけられており、生徒の興味・関心を喚起する工夫がある。以上のような報告を受けております。

次に、清水書院です。コラムや特製ステージの中で身近な話題を取り上げるなどして、生徒の興味・関心を引き出すよう工夫している。見開き1単位時間扱いで、学習目標、本文、まとめてみようという流れで構成されている。見開き2ページに学習目標とまとめてみようが設けられ、見通しを持ったリ振り返り学習をしたりしやすい構成になっている。巻頭に時代ごとの特色を考え、まとめるためのYチャートを提示し、歴史を体感できるよう工夫している。以上のような報告を受けております。

次に、帝国書院です。文章を補足する図や写真が多く掲載されており、鮮明に見える工夫がされている。要点を簡潔にまとめた表現がされている。また、資料において、世界遺産や国宝に指定されているものにはマークがつけられている。各部の冒頭にあるタイムトラベルのイラストは各時代の特色をイメージしやすく、また生活の様子が詳しく描かれているなど、多角的な手法を促す配慮がされている。時代を体感させる活動のページには、必ず地図が掲載されている。また、地域融合を意識した内容が見られる。以上のような報告を受けております。

次に、日本文教出版です。本文見開きページ以外にも図版特集を設定するなど、図版が豊富で、生徒の興味・関心を引き出す工夫をしている。導入、本文、時代の転換の様子、本文として時代の特色の流れで、各時代の学習を構成し、歴史の大きな流れを捉えられるようにしている。毎時間に時代、世紀のスケールを示し、学習している時代を確認できる工夫がされている。また、世界遺産や国宝が分かるマークが写真資料に付いている。先人に学ぶ、歴史を掘り下げる等、探求しやすい学習内容が記載されている。以上のような報告を受けております。

次に、自由社です。見開き2ページに探究心を高める学習課題が提示されている。学習内容を補完する資料があり、各資料の説明も丁寧で分かりやすい。B判のため、ページ数が多く、厚みがある。多くのコラムやミニコラムによって、本文に記された内容を進化させる配慮がされている。以上のような報告を受けております。

次に、育鵬社です。各章の初めに歴史絵巻のイラストを配し、各時代の大きな流れや特色を捉えるきっかけをつくっている。導入資料と学習課題が冒頭に示されている。また、生徒の気づきの助けとなる抜き出しが豊富に記載されている。日本の美の形やノーベル賞受賞者、現代文化の担い手など、世界で活躍する日本の姿を多く取り上げ、日本のよさを再発見する内容になっている。なでしこ日本史、このころ世界はというコラムで、多面的・多角的な思考を促す工夫がされている。以上のような報告を受けております。

最後に、学び舎です。各章の導入部分には、各地域の生活や世界とのつながりを視覚的に捉えられるページが設けられている。A B判で大きいため、文字や写真、図版などの資料がゆとりをもって配置されている。歴史を体験するのコーナーで、実際に調査、体験する学習が示されている。火起こしや糸紡ぎなど生徒が興味を持てるような活動が記述されている。

歴史的分野については以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。ご質問はありますか。

（「なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） そのほかよろしいですか。

それでは、採択の審議に移ります。

委員の皆さんのご意見をお願いいたします。

それでは、松本委員からお願いします。

○委員（松本良幸君） 歴史教科書については、市民アンケートや各団体からの意見が多数寄せられておりましたので、近代史について、各社の記述を重点的に比較してみました。また、できるだけ事前の背景や指摘事項を考えず、生徒の立場で読み込んでみましたが、正直なところ、私はどの教科書も意図的かつ強力にある方向性を押しつける記述があるようには感じませんでした。先生方が指導要領に沿って、しっかりとした指導をしていただければ問題ないものと考えます。したがって、事前に特定の教科書を排除した上で検討することなく、あくまで教科書として、古代から現代までの歴史をバランスよく解説し、生徒たちが歴史に興味を持てるような工夫のある教科書を推薦したいと考えました。結果、報告にもあったように、ページ下部に時代スケールを配置し、総体的な時代を捉えられる工夫があったり、テーマごとに地図や写真を分かりやすく配置しているなどの点を評価し、私は東京書籍を推薦したいと思います。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、浅沼ですけれども、全ての教科書が近現代を一層重視するという観点から、多くのページが当てられている中で、東京書籍を採択したいと考えます。

歴史的分野の教科書は、各社ともよって立つ歴史観を明確にしなが、それぞれの特徴があらわれています。その中で、我が国の歴史の大きな流れを理解する各社の一層の重視の観点から、東京書籍は第1章の歴史の流れを捉えよう、身近にある伝統や文化から歴史を読み解く導入の仕方、歴史を考察、説明するやり方について、インターネットやプレゼンテーションソフトの活用などが充実しています。また、全体を通して、原始から現代までの時代区分の中で、本文の見開きの内容がどの時期に当たるかを示している点は工夫があつて、優れていると思いました。

最後に、国府と国史について一番詳しく、唯一国府が置かれた旧国名と現在の都道府県名が示された地図が掲載されてございます。府中市と国府つながりという点から、震災時に支援した多賀城市も東北地方国府として記載されています。府中市の生徒にアイデンティティを育てる点で望ましいと考え、東京書籍を採択したいと思います。

以上です。

次は、崎山委員、お願いします。

○委員(崎山 弘) 今回、8社から見本本が提供されました。いずれを見ても、1つ共通するものがあります。「原爆の投下から5年以内の広島で20万人以上、長崎では40万人以上の生命が奪われ、現在でも多くの人々が放射能による後遺症で苦しんでいます(東京書籍)。「シベリア抑留で6万人以上が亡くなった(帝国書院)。「東京大空襲では10万人以上の生命が奪われた(清水書院)。「200の主要都市が空襲され、50万人の国民が命を落とした(自由社)。「武装解除した日本軍人など約57万から70万人をシベリアなどに連行し、長期間過酷な労働に従事させたため、6万人以上の人々が死亡しました(育鵬社)。」などのように、全ての教科書でアジア・太平洋戦争での日本の被害を記載していますが、いずれの教科書においても相手の国や民族に対して恨みや敵意を抱かせるような記載が1つありません。

中学生に、歴史上の事実は事実として戦争があったことを伝え、そこから学ぶべきことを教えることは必要ですが、中学生が会ったこともない人に対して、あるいは直接経験していないことを根拠として恨みを植えつけたり、相手を蔑んだりするような教育は、憎しみの連鎖という不毛な結果しか得られません。そのような記載が全く書かれていないという点においては、日本の歴史教科書として、いずれも適切なものと思います。

では、各教科書についての意見に入ります。

まず、自由社。自由社の238ページの図、ハワイ真珠湾への攻撃の説明文に「戦艦4隻を撃沈、4隻を撃破する大成果をあげた」とあります。少なからず犠牲者が出ている日本軍の行為について、現時点においても「成果」という表現を中学生に示すことは不適切と思います。自由社は除外します。

次に、育鵬社。私は、4年前の教科書採択でも指摘しましたが、育鵬社の教科書には育鵬社のトレードマークが表紙と背表紙に印刷されています。他の歴史教科書では、裏表紙にトレードマークを印刷している会社が4社ありますが、表紙に印刷しているのは育鵬社だけです。ちなみに、このマークはフジテレビと同じマークです。

子どもたちは、これから高校受験など試験を受けるわけですから、その知識のよりどころとして、教科書を絶対に正しいものとして認識します。いずれの教科書であっても、教科書にマスコミグループの商標が記載されることに私は違和感を覚えます。

今年も、本市の教育委員会に先立って行われた教科書見本本展示会のアンケート、136件で、お1人だけ、4年前の採択で私が指摘したことに触れた記載等はありませんでしたが、新たにこの点を指摘された方は誰もおられません。子どもたちの机の上に、あたかも正しい知識の代表であると子どもたちに教え込むかのごとくに、マスコミグループのロゴが教室一面に並ぶことは不適切です。よって、育鵬社の教科書については、内容がたとえどのようにすぐれた教科書であったとしても、不適切と考えます。

次に学び舎。287ページに、東日本大震災の後に発生した原子力発電所での放射能漏れ事故で、福島とチェルノブイリの放射能汚染地区を比較すると、見事に一致するかと思えるような図が記載されています。

傍聴の方には申し訳ないのですが、先ほど休憩時間の中に、教育委員並びに事務局の方にはその図のカラーコピーを配付しました。この図を見た中学生は、色塗りの部分がほぼ一致することから、福島の原子力発電所の事故はチェルノブイリと同等の事故であると判断する

でしょう。しかし、チェルノブイリ原発事故の図は放射能の単位（キュリー）であり、福島の図は線量当量率（ $\mu\text{Sv/h}$ ）です。異なる指標を同じように比較することはできないので、この図そのものが不適切です。もし比較するのであれば、中学生のレベルでは、キュリーと $\mu\text{Sv/h}$ の変換はできませんから、あらかじめ同じ単位にそろえて、図示して比較すべきです。不親切な図だと思います。ただ、それ以上に、この図には大きな問題があります。出典がブログネタなのです。

私は、本職が小児科医です。医学論文に査読と言って、学会誌への掲載を希望されて提出された医学論文が適切であるかどうかを評価する仕事もしています。その際に、提出された論文が引用した資料については、必ずその原典を確認して、引用された資料が適切であるかも検討します。根拠となる引用元が誤った情報であれば、本文の信頼性もなくなります。

教科書は論文ではありませんが、むしろ論文以上に厳密に正確さを求められます。この教科書で引用された図については、「早川由紀夫による」と教科書に記載されていますが、残念ながら早川由紀夫氏はこの図の信憑性を検証できる資料を、査読を受けた論文という形で公表していません。そもそも、この図もブログの中で何回か改定を繰り返し、早川氏本人もご自身のブログで、「2015年4月5日、セシウム粒子に、当初私が心配したほどの凶悪性はなかった」などと述べています。この図の信憑性そのものが検討課題ではありますが、引用元がブログの記事という検証不能な資料を使っている。そのことを編集の方針として許していること自体が教科書として不適切です。学び舎も除外します。

そこで、私は残った東京書籍、教育出版、清水書院、帝国書院、日本文教出版の5社から選ぶことといたしました。その比較の方法として、アジア・太平洋戦争が開始されたころの日本とアジア諸国との関連に注目してみました。「太平洋戦争」という表現が意味する日米関係ではなく、また最近注目を浴びるような動きをしている中国・韓国だけでなく、広くアジア地域に日本軍が進出した戦争であり、タイ、ビルマ、インドネシアなども同等に扱うことが望ましいと考えたからです。その配慮がなされていると思われたのは、東京書籍と帝国書院でした。

この2社については、府中市の先生方も資料が豊富で分かりやすいなどの評価をしている様子で、大きな違いは見出せませんでした。索引の項目数を数えてみました。人物索引では、東京書籍が347人に対して帝国書院が311人、事項索引では東京書籍の1,057に対して帝国書院が734と、東京書籍のほうが上回りました。数多い資料や事柄を勉強するには、索引の多いほうが子どもたちに便利だろうと考えて、東京書籍を選びました。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続きまして、齋藤委員、お願いします。

○委員（齋藤裕吉君） 歴史につきましては、特にこの近・現代史について、各社の編集者の歴史観というようなものがかなり鮮明にあらわれていると受けとめました。そういう中で、科学的で多角的な観点から歴史を見るという力をつけさせたいと考えて各社の教科書を見たわけですが、結論で言いますと、私はやはり東京書籍を推したいと思いました。

1つは、章ごとに導入・展開・結末となっていて、特に結末部分でその時代の特色を捉えるという学習のまとめ方がなされていたり、近・現代史ではないのですけれども、古代の神話を扱った部分でも、考古学と並べて、その考古学的手法と比較するなどして考えさせる

ということで、科学的な歴史観を育てるといような配慮がなされていると、私は受けとめました。このようなことで東京書籍を推したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、村越委員、お願いします。

○委員（村越ひろみ君） 私は、中学校のころ、歴史の勉強がとても苦手で、あまりよく読んだことがないなと思ったのですが、今回、この教科書を全て見させていただいて、どの教科書を見ても、今の私がもう一回勉強してみようかなと思うようなものでした。

今、いろいろ意見がありましたけれども、私も帝国書院か東京書籍のどちらかがいいかなと思っていました。

帝国書院には、單元ごとに振り返り学習ができることやタイムトラベルが設けられているのがよいと思いました。それでも、東京書籍のほうは、その時代時代で学習課題と確認ということが明確に示されていて、見やすく分かりやすいと思ったので、東京書籍がよいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、確認をしたいと思います。

社会科歴史的な分野につきましては、全会一致で東京書籍ということによろしいですか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、そのようにしたいと思います。

続きまして、公民的分野ですね。説明をお願いします。

○指導主事（山本勝敏君） それでは、社会の公民的分野についてご報告いたします。

教科書の発行者は7社です。それぞれの主な特徴についてご説明いたします。

まず、東京書籍です。学習指導要領に示されている対立と合意、効率と公正といった現代社会を捉える視点が非常に明確であり、かつ具体的で身近な事例を丁寧に取り上げている。現代社会に関心を促そうと、見やすい資料に編成され、本文とのつながりも明記されているので、振り返りや予習を通じて学習内容が理解されやすい。資料が豊富であり、また鉛筆マークで資料分析の注目点を指示しているので、生徒が自主的に調べ学習や探求学習を行うことができるように配慮されている。技能を磨く公民にチャレンジが20項目あり、基礎・基本の徹底に有効である。以上のような報告を受けております。

次に、教育出版です。教科書巻末に用語解説の資料が記載されており、語句調べや生徒のつまづきに対応しやすい内容になっている。見開き2ページに振り返りを目的とした設問があり、学習のポイント整理に有効である。言葉で伝え合う表現活動を中心としたテーマ学習として、レポートの作成やプレゼンテーション、ディベートなどの手法を紹介している。言語活動の学習に対して配慮されている。以上のような報告を受けております。

次に、清水書院です。写真や図解が多く、語句の解説も丁寧である。現代社会に関心を持たせ、課題点や改善点などを考察させやすい。教科書本文がページ中央に集中した掲載になっており、見開きの余白に語句の解説、資料の解説を配置している。系統化されたレイアウトで見やすい。学習内容に関連する事例などを取り上げたコラムや本文に関連する資料や条文などが適切に紹介されている。単語の説明や本文に記されている内容に即した資料が多く掲載されている。以上のような報告を受けております。

次に、帝国書院です。対立と合意、効率と構成といった現代社会を捉える視点の事例が具体的であり、十分な分量を割いている。社会的な事象と、それが及ぼす国民生活への影響等、

因果関係が分かりやすく書かれており、一読することで学習内容が理解できるような記述がされている。多面的・多角的に社会的事象を捉えられるように、生徒に考えさせる場面を精選している。また、自分の意見をまとめたり、様々な立場から話し合ったりする段階が用意されている。資料が豊富で、写真も鮮明である。クローズアップは、学習内容の具体的な事例を提示しており、生徒の興味・関心を高めやすい、以上のような報告を受けております。

次に、日本文教出版です。色のバリエーションが多く、親しみやすい資料の扱いも多い。また、文字の大きさや書式など、バランスもよい。語句を繰り返し引用するなど、既習事項を活用して学習することができる。また、学習の系統性もあり、復習に有効である。他の資料と比較したり、変化に気づかせたりする内容など、資料解析の特徴が生徒に分かりやすく表現されている。最新の資料が掲載されており、厳選した資料を活用しながら、生徒に習得させたい重要事項を押さえることができる。以上のような報告を受けております。

次に、自由社です。課題の探求において、卒業論文作成やディベートなど興味・関心を引き出す活動が選択されている。学ぶべき要点を押さえつつ、より発展的な学習ができるように、分量が配慮されている。社会科見学、修学旅行等の際に興味・関心を引き出すことが期待される資料が提示されている。日本の伝統的な価値観や社会のあり方の学習を通じ、公民的資質を育てるよう配慮している。以上のような報告を受けております。

最後に、育鵬社です。理解を深めようにおいて、学習内容に関連するトピックスを取り上げるなど、生徒の興味・関心を引き出す内容が選択されている。身近な問題から国際社会へと、段階的に視野を広げ、学習を進める構成となっている。1単位時間に学ぶ内容が見開きにまとめられ、つかむ・調べる・まとめるといった学習の内容がつかみやすいレイアウトになっている。現代の諸問題をみずからにかかわる問題として学び、将来の社会に主体的に参画する態度を養うことを指向した記述となっている。

公民的分野については以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明を終わりました。ご質問はありますか。

よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、採択の審議に移ります。

私から申しあげたいと思います。公民的分野ですけれども、いずれの教科書も特色ある構成や編成がなされています。

私は、最終的に東京書籍と帝国書院、2つが候補として残りました。今後、重視されていく能動的学習、アクティブラーニングを念頭において、これらを重視した言語活動、すなわち説明や伝え合い、要約などを取り上げている、この2社について比較検討をしました。

その結果ですが、帝国書院を採択したいと思います。男女共同参画、情報化社会、インターネット、エネルギー問題、あるいは多摩川清掃などの環境問題といった社会的課題を丁寧に取り上げて扱っている点からでございます。

以上です。

続きまして、崎山委員、お願いします。

○委員（崎山 弘君） この教科書が使われる最後の年に、2020年の東京オリンピックが開催されます。そのときの現代社会の中で、日本はどのようになっているのでしょうか。

世界各国から多くの選手と観客が訪れ、世界各国に日本の映像や文化などが紹介されることになります。多様な人が訪れ、ともに生活する日本である必要があります。それらの社会をつくり上げるための公共の精神とは、滅私奉公ではなく、自分とともに他人を尊重する人権教育が基本となるべきだと、基本的人権を認められた者が集まって構成された社会、これをどのようにつくり上げるかが問われる世の中です。そのような視点から、公民の教科書の編集方式を検討してみました。

育鵬社については、歴史教科書と同様に、トレードマークが表紙に印刷されていることに、私としては内容のいかに問わず、まず選択の対象外といたしました。

自由社の教科書には、重要な事柄を深く理解するために、もっと知りたいという欄が設けられています。その1つに、企業は誰のものかというタイトルで、2ページに書かれている箇所があります。意思を持った人が集まって企業が起き上がるわけですが、一旦起き上がってしまった企業を主語として、企業は誰のものかという問いかけをしています。株主などの出資者、経営者、従業員など1人1人に別々の目的があることは事実ですが、個人を中心に捉えて会社を見るという視点ではなく、組織の存続のための個人の働きを強調している嫌いがあります。基本的人権を尊重するという姿勢に乏しい表現であり、私としては選択から除外します。

教育出版の103ページに、さらにステップアップというコラムがありまして、そこに裁判、傍聴に行ってみようという話題が取り上げられています。東京書籍の93ページにも、裁判所に行って実際の裁判を傍聴してみましょとあります。4年前の教科書採択でも、他社の教科書でこれを私が指摘した覚えがあるのですが、実際に裁判を傍聴しても、例えばテレビドラマにあるような、原告側弁護士と被告人が言い争うようなことは、実はほとんどありません。また、犯罪を起こした関係者が傍聴席にいることもありますし、あるいはプライバシーの問題もあります。もし、知っている人が被告人だったり関係者だった場合、適切に秘密は守れるでしょうか。中学生がうかつに裁判を見に行くのは難しいのではないかと考えております。

裁判が公開されているのは、関係者に対して公正な裁判を行っていることを示すためであって、まるでスポーツ観戦のように裁判を見にいこう、誰でも見られますみたいなことを簡単に書いてしまうと、むしろ子どもにとって危険ではないか、配慮が足りないのではないかと考えています。教育出版並びに東京書籍は、これはあまりふさわしくないと思います。

ですから、日本文教出版、清水書院、帝国書院のいずれかでということ、私は考えております。

教科書の大きさの点では、清水書院がB5判とコンパクトですが、他の2社は一回り大きいA判となっています。その大きくなった分を生かして、資料などが豊富に見やすく配置されている、利用価値が大きいなど、府中市の先生方の評価なども得られているという点で、帝国書院を私は選びました。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 続きまして、齋藤委員、お願いします。

○委員（齋藤裕吉君） 私は、東京書籍、帝国書院がとてもよくできているなという印象

を持ちました。

その中で、東京書籍の場合、環境や防災、そして人権や平和などといった今日的な課題の取扱いや、難しいことではありますが、先ほど説明にもありました対立と合意という見方や考え方を育てるといような単元構成、そしてまた教材の構成という点で東京書籍は優れていると思いました。現代社会を捉える視点も具体的で、身近な事例から多様に考えられるように指導を進めていきたいものだと思います。

また、東京書籍につきましては、巻末の日本国憲法の条文の用語解説が特に詳しいという印象を持ちました。意味を理解しやすいようにという工夫がなされていると受けとめました。このような理由で東京書籍を私としては推したいと思います。

なお、自由社や育鵬社について、ほかの資料で比較をしながら見たりしたのですが、武力攻撃事態対処法とか海賊対処法といった法令なども掲載されておりまして、この巻末ページというのは、どの社も、憲法や各種の基本法などといったレベルのものを取り上げているところではありますが、こういった法律を取り上げているというところに1つの特徴があるなと思いました。私は東京書籍を推したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて、村越委員、お願いします。

○委員（村越ひろみ君） どの教科書も、資料やカラーバリエーションが豊富で、意欲的に学べるものだと思います。

公民というのは、政治や法律、人権など、本当に身近なことを学習する分野であると思います。その中で、帝国書院は、中学生が今、それから将来に直面するかもしれない課題を挙げていて、何か生徒が生活に密着して学べるものだったのだと思ったので、帝国書院を薦めたいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて、松本委員、お願いします。

○委員（松本良幸君） 私も帝国書院を推薦いたします。特に評価したいのは、暮らしと経済についての項目で、イラストや図表に加え、漫画も交えてより具体的に解説をしている点や、トライアル公民のページでは、生徒たちに具体的な場면을提示し、考えられるよう工夫している点でした。よって、私は帝国書院を推薦いたします。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、結果なのですけれども、帝国書院が多数ということで、公民的分野は帝国書院を採択したいと思います。よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） さて、ちょっと時間が長く続いているのですけれども、この地図の採択が終わりましたら、短時間休憩をとりたいと思いますけれども、よろしいですか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） では、そのようにしたいと思います。

それでは、続きまして地図の教科書に移ります。

説明をお願いします。

○指導主事（山本勝敏君） それでは、社会の地図についてご報告いたします。

教科書の発行者は2社です。それぞれの主な特徴について、ご説明いたします。

まず、東京書籍です。資料集に載っているような大きい資料が豊富で、大きく表現されており、調べ学習に活用しやすい。年代ごとの地図が多く掲載されており、土地利用の変化が

よく分かる構成になっている。授業でよく取り上げられる地域については、多くの資料を掲載している。淡い色調で構成され、グラフなどが見えやすくレイアウトされている。以上のような報告を受けております。

次に、帝国書院です。世界の国々と日本の大きさや位置関係が比較できるように、世界地図には同緯度、同縮尺の日本が描かれている。産業、人口、土地利用等の資料が多く掲載し、多面的・多角的に地域を捉えることができるよう配慮されている。色合いが優しく見やすい。掲載されている地名数が多く、また鳥瞰図や、様々な主題図が多く掲載されており、知識を身につけやすくなっている。

地図については以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。ご質問はありますか。

その他よろしいですか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、採択の審議に移ります。

委員の皆様からのご意見をお願いいたします。

齋藤委員、お願いします。

○委員（齋藤裕吉君） 2社とも、巻頭で地図記号とか地図帳の使い方など明示をして、使いやすい地図というようなことを心がけた編集になっていると思いました。

それから、現在の日本の領土の問題につきましても、両社とも示し方は同じで、明確であると思いました。

そして、またカラーバリアフリーですね。かなりたくさんいろいろな色を使っているわけですが、これなどにも両社とも配慮をしているということで、このようなことは共通していると思いました。

さらに細かく見ていきますと、やはり見やすい印刷とか構成、それから文字や絵、図も見やすいというようなことで考えると、帝国書院がよろしいと私は思いました。

日本の地域の伝統や文化を多く扱っておりますし、それから産業とか人口、土地利用などの資料を多く掲載しておりますし、地理や歴史との関連で活用しやすいだろうなと思いました。

また、地図帳の使い方が巻頭で説明されているだけではなく、「地図を見る目」とかやってみようと思わせる学習ガイドがところどころに織り込まれておりまして、これも学習に大いに役立ちそうだと思います。

以上、帝国書院を推したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） 続いて、村越委員、お願いします。

○委員（村越ひろみ君） どちらも見やすいものだと思います。

地理の教科書は帝国書院ということもあることを思えば、連動させるのもよいと思うので、帝国書院を選びたいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） 松本委員、お願いします。

○委員（松本良幸君） 両地図とも、とてもよくまとめられていると思います。

比較結果としては、僅差ではありますが、写真や数字的資料も豊富であり、自分が推薦する地理教科書との連動を考慮し、私は帝国書院を推薦いたします。

○教育長（浅沼昭夫君） 私は帝国書院の地図帳を採択したいと思います。

その理由として、2社とも大きな違いは見られませんが、小学校で使っているということ、それから資料図として鳥瞰図が豊富ですね。また、世界・日本ともに、索引掲載の地名数が豊富で、これらは生徒にとって使い勝手がよいと感じました。したがって、帝国書院を採択したいと思います。

次、お願いします。

○委員（崎山 弘君） 地図は眺めていても楽しいものですが、授業では図面・グラフ表などの資料として利用されます。例えば、東京を理解するに当たっては、世界地図での位置、アジアでの位置、日本での位置、東京といっても23区ではなく東京都としての東京、東京の人口、面積、産業、地形図など、様々な情報が存在します。

資料として使うからには、索引の使い勝手が重要です。索引に記載されている地名数が、日本・世界を合わせて、東京書籍の3,640、帝国書院は4,224と1割以上多くなっています。資料の数そのものも、帝国書院のほうが多いようです。こういうことからしても、資料の利用価値としては、その差は大きいと私は考えます。よって、帝国書院の地図を推薦いたします。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、採択の結果ですけれども、全会一致で帝国書院の地図を採択するという事によろしいですか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） そのようにしたいと思います。

それでは、約束どおり、ここで短時間でありませうけれども、休憩をとりたいと思います。

それでは、3時50分までということをお願いいたします。

\_\_\_\_\_ ◇ \_\_\_\_\_  
(休憩)  
\_\_\_\_\_ ◇ \_\_\_\_\_

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、再開いたします。

数学の教科書です。

説明をお願いします。

○指導主事（林田孝子君） 数学について報告します。

教科書の発行者は7社です。それぞれの主な特徴について説明します。

まず、東京書籍です。基礎的・基本的な知識や技能が習得できるような問題構成になっているとともに、振り返りや学び直しの場面が多く設定されていて、生徒のつまずきに対応した指導ができるよう配慮されている。学び合いのページでは、言語活動を通して問題解決型の学習ができるような題材が工夫されている。章の導入問題が、生活に密着した内容や場面を想定しやすい図や絵が取り入れられた紙面であるなど工夫され、数学的活動をスムーズに進めることができる。以上のような報告を受けています。

次に、大日本図書です。学習の導入部分に、既習事項との関連を重視した導入問題を設け、生徒にとって分かりやすく学べるよう工夫している。複数の考え方を比較したり考察したりする場面を設けている。また、説明し合う活動や互いの考えを紹介する活動を取り入れるな

ど、言語活動の充実を図っている。問題の分量が適切であるとともに、章末問題としていろいろな問題、発展、もっと数学など、学んだことをもとにして解決する問題が様々設けてあり、習熟度の高い生徒にも配慮されている。以上のような報告を受けています。

次に、学校図書です。既習事項を活用したり、数学を日常生活や社会の中で活用したりする場が設けられ、生徒が主体的に学習に取り組めるよう配慮されている。全ての学年において、説明し、伝え合ったり、実測により検証したりするなどの活動が取り入れられ、数学的活動を通して学習が進められるように配慮されている。数学的な概念をイメージしやすい図や写真が多く取り入れられるとともに、作図や書き込みがしやすいように、ページの外側に作図、書き込み欄が設けられている。以上のような報告を受けています。

次に、教育出版です。図や表を用いた解説が多く、分かりやすい。また、章のまとめで、学習した基礎的・基本的事項を穴埋め形式で確認するページが設定されている。表現力等を高めるために、学習したことを活用する課題、多様な考え方ができる課題、自分の考え方を説明したり、解決方法を話し合ったりする課題が設定されている。学習の狙いやポイントが一目で分かるよう、配色やレイアウト、キャラクターの吹き出し等を使用し、見やすく工夫されている。以上のような報告を受けています。

次に、新興出版社啓林館です。基礎・基本の確実な定着のために丁寧な解説をするとともに、スモールステップの学習過程、操作的活動を多く取り入れている。生活との関連が重視され、生活の中から数学的課題を見つけたり、数学を利用して身の回りの課題を解決したりすることが意識されている。本冊と別冊の2冊構成になっており、別冊は各章の学習に関連する既習事項や各章での学びを生かした活用場面等が掲載され、課題解決学習や習熟度別学習等、多様な学習形態に対応することができる。以上のような報告を受けています。

次に、数研出版社です。基礎・基本が確実に身につくよう、各章や項目ごとに確かめよう・考えよう・基本問題・章の問題・やってみようの5つの種類の練習問題があり、十分な量の練習問題が設定されている。単元が、振り返り・本文・チャレンジ編の3編に分かれ、学習内容の定着度の確認がしやすく、発展した内容に進みやすい構成となっている。巻末に知識を活用しようとして、学年で学習した内容を総合的に使って取り組む課題が設けられている。以上のような報告を受けています。

最後に、日本文教出版です。学習内容を確実に理解するために、習熟度に合わせて、練習問題の分量が調節できるように構成されている。また、学び直しが大切にされ、系統性を重視した学習指導が進められる。課題発見、課題選択、課題解決等がマークで示されるなど、数学的な活動を通じた学習活動で構成されている。数学用語や記号などについて分かりやすく表現し、意味が理解しやすくなっている。また、教科特有の表現になれるよう、数学用語を使った表現の例を示すなど工夫している。以上のような報告を受けています。

数学については、以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。ご質問はありますか。

よろしいでしょうか。

（「なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、採択の審議に移ります。

委員の皆さんのご意見をお願いいたします。

齋藤委員。

○委員(齋藤裕吉君) 各社に共通しておりますことを申しあげたいと思います。

基礎・基本の重視ということや、易しいものから難しいもの、それから振り返りといったことにより、知識や技能が着実に身につくように反映されている。この点は、どの社の教科書見本もよく考えられていたと思いました。

そして、また小学校からの連続性という点でも、私は系統的に進められるような配慮がなされていると思いました。

また、もう1つ共通なのは、巻末に立体模型の型紙が付いているということで、前回、これまで使っていた教科書でもそのようなものだったと思いますけれども、また親切というか親切過ぎるといふか、定規とかコンパス、はさみの使い方、昔はなかなか三角形の頂点が合わないとか、それから三角すいの頂点が合わないとか、そういう手先を器用にしながら操作的な活動をして、立体についても学ぶとか、そんなようなこともやっていました。今は少し問題が子どもたちに親切なのか不親切なのかは分かりませんが、そのような共通した教材が付いているということが認められました。

そういう共通点を踏まえながら、各社の違いを見ていったのですが、結論で言うと、私は啓林館を推したいと思いました。この教科書のよいところ、推せる理由というのは、1つは振り返りという部分で、小学校以来の既習事項を確認したり、見方・考え方というコメントによって思考判断のきっかけを示したり、さらに発展的な学習につなげる、広がる数学というようなコメントが随所にありまして、それぞれの生徒に応じて課題に取り組んでいける、深化と学習に取り組める、そのような配慮がよくなされているということがあります。

それから、もう1つは、みんなで話し合ってみようとか自分の言葉で伝えようといった数学の学習における言語活動をリードするような表記が多くありまして、さらに生徒同士で学び合うという活動にもつなげる、そのような配慮がなされているということです。これは、現在行われている、どの教科書でも共通している課題でありまして、そういったことに応える内容になっていると思いました。

3つ目は、マスナビブック、数学ナビブックということですが、これは別冊が付いておりまして、本文の中の問題の解答も掲載されており、さらに学びを生かしたり、つなげたりするための課題が示されているというようなことで、この点は構成、編集がユニークでありまして、習熟度別の学習などにも活用できる形になっていると思いました。

以上、啓林館を推薦する理由でございます。

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、次に村越委員、お願いします。

○委員(村越ひろみ君) 歴史に続き、数学もとても苦手な分野で、あまり教科書を開きたくなかったのですが、7社の教科書を開かせていただき、どの教科書もとても丁寧で、あれならもうちょっと数学ができるようになったかなと思えるような教科書の内容だったと思います。

その中で、調査研究資料の先生の意見を見ても、課題解決学習、習熟度別学習など多様な学習形態に対応しているということもあり、多分習熟度別の指導もしやすい教科書なのだろうと思うのと、あと自発学習をするための問題がたくさんあるということから、啓林館を薦めたいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、松本委員、お願いします。

○委員（松本良幸君） どの教科書も図表やイラスト、また工作付録などを使って、数学を学びやすくする努力があらわれていると思いました。

私は、基礎・基本の確実な定着に向けた、丁寧な解説がしてある啓林館を推薦したいと思います。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、浅沼ですけれども、私も啓林館と東京書籍のいずれかと考えました。大変迷うところでありましたが、その中で、東京書籍は唯一、表現として、全ページが文節改行になっているのですね。したがって、生徒が今問われていることは何かという、問題を把握しやすい表現になっているというところはほかと比べて特徴的だと思いました。

また、巻末に立体や角度、三平方の定理などに関する付録が付いていましたね。これはどの教科書でもそうです。数学を身近なところに引き寄せる工夫がなされています。

それから、もう1つユニークなのは、大國魂神社に奉獻されている関流和算額との関連で、数学を切りひらいた関孝和さんや算額の詳しい紹介がありました。最後の最後まで迷ったわけですけれども、この点から東京書籍を推したいと考えました。以上です。

では、崎山委員、お願いします。

○委員（崎山 弘君） 私は、理数系の人間で、中学生のとき、数学は得意科目でした。今にして思えば、小学校からの積み重ねをもとに、ひらめく部分があったのだと思います。ひらめくといっても、中学生の数学ができたのではなく、小学校から教わったことを組み合わせ、そこに少しだけ新しい概念をつけ加えて考えていただけのことです。

中学生までの数学は、四則演算の組み合わせが大部分となっています。

高校になって、実は私は次第に数学が嫌いになっていったのですが、それは三角関数や微分積分など、新しい概念を十分理解することなく、手を抜いていたため発展的な問題に太刀打ちできなくなったからだと考えています。

多く子どもたちに数学を理解してもらおうとするならば、数学が得意な人には悠長で退屈に思えるのですが、丁寧な解説とスモールステップの学習過程、反復する練習、少し発展した問題という流れが大切です。その点の配慮を感じた啓林館が好ましいと感じました。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。

それでは、採択する教科書ですけれども、新興出版社啓林館が多数ということで、この会社のものを採択したいと思います。よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 続きまして、理科でございます。

説明をお願いします。

○指導主事（駒澤文泰君） 理科について報告します。

教科書発行者は5社です。それぞれの主な特徴について説明します。

まず、東京書籍です。フロムジャパン、日本の科学のコーナーは、日本が世界に誇る最先端の科学技術を取り上げ、科学に対する興味を高めることができる。実生活で感じられる疑

間を取り上げ、興味を持たせる導入となっている、また、学びを生かして考えようとして、学習した内容を活用して考える活動が徹底されている。方途と書き方が一貫して統一されており、実験・観察の結果の分析と考察、図やグラフの効果的な使い方など表現力を育成できる、以上のような報告を受けています。

次に、大日本図書です。トピック、やってみようなどの生徒が興味を引く内容が豊富に掲載されていたり、学習した内容と日常生活や企業との関連を取り上げたりしている。単元の最初に、これまでに学んだこと、これから学ぶことが示されていて、見通しを持って学習ができるように工夫されている。また、単元の終わりに、終章として、生徒が学んだことをもとに考える発展的な課題があり、思考力を高めることができる。図や資料と説明文の量のバランスが適切である。また、注意点に明るい色を使い、生徒に注目させるよう工夫している。以上のような報告を受けています。

次に、学校図書です。単元の初めに、これまでに学んだことを確認するページがあり、小学校や中学校で学んだことが図解入りで分かりやすく、振り返りがしやすい。科学の窓、チャレンジなどのコラムを通して、自然に対する興味・関心を高め、学習内容と日常生活との関連が分かる内容になっている。また、章末に科学を仕事に生かすがあり、学習内容と職業との関連を示し、職業への関心と学習内容を高めることができる。実験・観察、レポートの書き方、器具の使い方の解説が丁寧である。以上のような報告を受けています。

次に、教育出版です。単元の初めに、小学校での学習の振り返りを設け、小・中学校の関連性に配慮している。また、巻末に器具の扱い方、グラフの書き方など、基本的だが大切な項目が記載されており、確認や復習の際に役立つ。実験方法が詳しく説明されていて、実験で何を調べるかというポイントが示されている。電子モデルカード、凸レンズを用いたカメラ、星座早見シートが付録として付いており、関心を高める工夫がされ、1人1人の学習に役立つよう配慮されている。以上のような報告を受けています。

最後に、新興出版社啓林館です。拡がる世界、サイエンストラベラーなど、学習に関連した資料を通して、幅広い知識と教養を深めることができ、興味・関心を引き出せる内容はもとより、生徒が間違いやすく、理解しにくいところは丁寧な付説があるとともに、考えるヒントやポイントを吹き出しとして示すことで、生徒が自分の考えをまとめやすいように配慮されている。本冊と別冊のマイノートを構成し、マイノートに書き込む作業を通して、基礎から応用まで、確かな学力を身につけることができる。以上のような報告を受けています。

理科については以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。ご質問等がありますか。  
よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、採択の審議に移ります。

委員の皆さんのご意見をお願いいたします。

村越委員。

○委員（村越ひろみ君） 教科書の本の題を見て、新しい科学、理科の世界、科学・理科・サイエンス、何か科学とかサイエンスということが本題になるのだと、少しびっくりしたのが第一印象でした。

それで、まず理科の世界という教科書の名称に少しひかれ、大日本図書を開いたところ、トピックややってみようという生徒が興味を引く内容がたくさんあり、また暮らしの中の理科という項目で、生活に密着して理科の学習ができる内容が載っていたのがよいなと思いました。また、これまでに学んできたこと、これから学ぶことが示されていることで、見通しを持って学習に取り組める点もよいと思い、大日本図書がいいかなと思いました。

調査研究資料の先生方の意見を見ても、実験や観察が多く設定されていて、発展的な内容が豊富であることや単元末の問題やまとめの問題に加えて、必ず読解問題が設定されているということで、思考力・判断力・表現力の向上がより意識されているという点がよいという声もありましたので、大日本図書を推したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） 松本委員、お願いします。

○委員（松本良幸君） どの教科書も生徒の興味を引くように、上手に編集されていると思いました。

中でも、大日本図書の教科書は、単元ごとの構成が順序立てて分かりやすく構成されており、以前に学習した項目を振り返る、思い出そうのワンポイントを配するなどの工夫が評価でき、私は大日本図書を推薦いたします。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、浅沼が申しあげたいと思います。

私は、大日本図書か東京書籍がよいと思いました。ちょっと長くなりますけれども、意見を申しあげたいと思います。

理科の先生方にとって、実験や観察の準備の時間は大変重要ですが、多忙化が進みまして、どうしても出来合いの教具や教材を使ってしまうという状況にあります。準備などに時間を要する資料は、どうしても避けられがちですね。また、手順が煩雑であったり、実験観察の結果が条件に左右されたりして、明確に結果が出にくい場合は、実験や観察を避けて、資料集や教科書の写真で済ませてしがちです。

そこで、中学校の生物の観察で、資料の準備に時間を要し、また教科書に示されたような観察ができにくいものがあります。それは、細胞分裂の観察です。したがって、先生方は、どうしても既成のプリントアウトを使うとか、教科書の図案で指導を済ませがちです。

しかし、細胞分裂の各段階や染色体を観察したときの生徒の喜びと感動は大きいものがありまして、生命の不思議さを感じさせることができる貴重な観察の1つであります。今後の私たちの社会の生命科学の発展のためにも、中学生にはぜひ1人1人に観察させたいものであるというふうに考えています。

この点で資料として見ますと、各社等も2通りに分けられます。1つは、玉ねぎそのものの発根、もう1つは、ネギの種子などを使った発根です。

玉ねぎの場合なのですが、これはエアレーション等をやりまして、条件を整えて、理科の時間に合わせて玉ねぎの根を生徒分、あるいは各クラス分を用意することは極めて困難であります。すなわち、玉ねぎを使った編集の中では、この観察はやらないということはどうも前提にしているような気がしてなりません。観察の個別化のための資料、処理の仕方などは、圧倒的に種子のほうが勝っています。玉ねぎ資料が2社、種子のほうが3社です。

そこで、私は全体的に比較検討しまして、種子のほうを扱っている東京書籍を選択したいと思います。

また、この観察で、どの時刻に試料をとれば、細胞分裂が活発でよく観察できるかということに記載している教科書はありませんでした。生物学の専門の理科の先生のためにも、あるいは生徒のためにも記載してほしいものです。

また、学習指導要領は下限という解釈に変更されていますから、たとえ演示実験でもよいので、DNAの抽出、もうこれは簡易な方法が開発されていますので、今後載せていただくことを検討していただけたらと思います。以上、東京書籍を採択したいと思います。

次、崎山委員、お願いします。

○委員(崎山 弘君) 理科という科目は、これを得意としていない人にとってみると、言葉を覚えるだけの暗記科目になりがちです。本来は、例えばナトリウム、電池、積乱雲、石灰岩などのように、物の名前を示す言葉と、酸とアルカリ、直流と交流、気圧と湿度、体積などのように、概念や働きをあらわす言葉を使って自然科学的な思考になれ親しんで、科学的に探求する能力の基礎を身につけ、科学的な見方や考え方を養うということが求められています。

中学生が興味を引くような切り口から、実験・観察に導き、考えて、判断して、それを表現するという流れが中学生からみて見やすく、まとまっているかなと思えたので、大日本図書を選びたいと思います。

以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) 続きまして、齋藤委員、お願いします。

○委員(齋藤裕吉君) 私も、大日本図書を推したいと思います。

単元の導入の部分で、小学校からその学習の時点までの既習事項を図解入りで確認できるようになっていて、その基礎的・基本的な力をつけるのにいろいろと工夫がされていると受けとめました。

そして、また単元の終わりの部分では読解力問題というようなコーナーを設けて、今求められている言語能力の向上のための課題が設定されておりまして、思考力向上にもつながる学習ができると受けとめました。

以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、確認したいと思います。

理科につきましては、大日本図書を採用するということによろしいですか。

(「はい」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、続きまして、音楽一般の教科書です。

説明をお願いします。

○指導主事(坂元竜二君) それでは、音楽一般について報告します。

教科書の発行者は2社です。それぞれの主な特徴についてご説明します。

まず、教育芸術社です。我が国伝統音楽の一部分を唱歌させたり、指揮棒の振り方や各楽器の奏法を掲載したりするなど体験的な学習にも配慮されている。吹き出しで、課題発見や課題解決のヒントを示しているのです。課題を意識し、問題解決型の内容で生徒の思考力・判断力・表現力を身につけさせる学習になっている。写真などが見開き2ページになっており、見やすい。巻末は、3年間共通して楽典事項や楽器などの写真が充実しており、音楽活動の

基礎的な能力を伸ばし、音楽文化の理解を深めている。鑑賞で、音楽を構成する要素のどこに着目すればよいか具体的で分かりやすく、生徒が学習活動を進めやすいよう配慮されている。以上のような報告を受けております。

次に、教育出版社です。学習内容の幅が広がる内容となっており、作曲の学習など、分かりやすくなっており、生徒の興味・関心を引き出し、主体的に取り組める内容になっている。体験的な学習を通し、学びやすいよう配慮されている。歌唱教材に、楽譜の諸記号についての表記があり、楽典的な内容にも意識して取り組むことができるようになっており、音楽活動の基礎・基本的な能力を伸ばすよう配慮されている。写真や図が見やすく、配慮されている。また、装丁がしっかりしており、表紙のデザインもよい。以上のような報告を受けております。

音楽一般については以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。ご質問ありますか。  
よろしいでしょうか。

（「なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、採択の審議に移ります。

委員の皆さんのご意見をお願いいたします。

松本委員、お願いします。

○委員（松本良幸君） 音楽一般は、教育芸術社と教育出版社からの選択となりますが、両社ともシンプルに分かりやすく解説してあると感じました。甲乙つけがたいところではありましたが、掲載楽曲のバランスや楽譜の見やすさ、説明資料の読みやすさを評価し、私は教育芸術社を推薦したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、浅沼ですけれども、私も教育芸術社を採択したいと思います。

その理由ですが、松本委員と同様に、全体的な編集がシンプルでありまして、楽譜などが読み取りやすいつくりになっています。それから、中では、グレードアップ等の欄によりまして、音楽活動のポイントを再度指示しているということで、教育芸術社を推薦したいと思います。

以上です。崎山委員、お願いします。

○委員（崎山 弘君） 音楽一般、学校で習うことはなくても、誰でも好きな歌の1つや2つはあることでしょう。今時の中学生であれば、クマムシやSEKAI NO OWARIの歌でしょうか。音楽活動は、音楽活動の基本的な能力を伸ばして、音楽文化に触れて、音楽文化についての理解と豊かな情操を養うものが音楽ということになっているようですが、歌は好きでも授業の音楽は嫌いということでは困るわけです。

高尚な音楽を聞けば情操が養われるというわけでもありません。自分が知らなかった音楽文化であっても、それを楽しむ、あるいはそれを楽しんでいる人がいるということを知ることが大切です。幅広い音楽文化に触れる要素が多く含まれているという視点で、教育芸術社を選びたいと思います。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。

齋藤委員、お願いします。

○委員(齋藤裕吉君) 私も教育芸術社を推したいと思います。

静けさと日本の音というようなページで、松尾芭蕉の俳句と音の関係などを取り上げているなど、音を楽しむという観点のあらわし方が非常に新鮮に映りました。五線譜の上に乗らない音というのがたくさんあるわけでありまして、そういう音のよさを楽しむという視点がとてもよいと思いました。

それから、1年生の最初の部分で、マイボイスということで、自分が持っている歌声を見つけようというような取り上げ方、これもとてもよいなと思いました。変声期を迎えつつある生徒たちは、自分自身に目を向けて、自分の特徴などに着目する時期でもあります。歌を楽しむ、音楽を楽しむという点で、この自分の声を見つけるという、この視点はとてもよいと思いました。

以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) 村越委員、お願いします。

○委員(村越ひろみ君) 私も教育芸術社を推薦したいと思います。

どちらも興味・関心を引く写真が掲載されていて、選ぶのに迷ったのですが、芸術社のほうが学習マップという項目を挙げていたりして、分かりやすく学べるのではないかと思います。また、劇場ホールの写真とかもあって、府中の森芸術劇場ともちょっと比較できたりして、子どもたちの興味を引くのではないかなと思いました。

○教育長(浅沼昭夫君) よろしいですか。それでは、確認をいたします。

音楽一般につきましては、教育芸術社を採択したいと思います。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) 続きまして、今度は器楽合奏についてご説明をお願いいたします。

○指導主事(坂元竜二君) 音楽器楽について報告します。

教科書の発行者は2社です。それぞれの主な特徴について説明いたします。

まず、教育芸術社です。学年に応じた難易度の楽曲が選曲され、楽器の構え方など基礎・基本的な知識・技能がおさえられている。生徒にとって無理なく演奏できるアンサンブル教材が多く取り入れられ、自主的に学習を進めることができるなど、音楽活動の基礎的な能力を伸ばす内容になっている。楽器の基本奏法の扱いが平易な表現と写真で工夫されており、演奏への導入がしやすくなっており、生徒の興味・関心を高めている。以上のような報告を受けております。

次に、教育出版社です。豊富な資料で分かりやすく、また各所に体験的な記述があり、生徒が演奏しやすいよう工夫され、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにしている。写真などが多くあり、課題解決のヒントを入れ、課題解決型の学習に対して配慮されている。全体的に分かりやすい表現で記述されており、写真や図が効果的であり、楽譜も大きく、見やすい工夫がされているなど、生徒の興味・関心を高めている。以上のような報告を受けております。

器楽については以上でございます。

○教育長(浅沼昭夫君) 説明が終わりました。ご質問ありますか。

よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、採択の審議に移ります。

委員の皆様からのご意見をお願いいたします。

松本委員。

○委員(松本良幸君) 器楽の選択も2社からとなりますが、音楽一般と同じく、説明資料の分かりやすさを評価すると同時に、自分の推薦した音楽一般教科書との統一性を考え、教育芸術社を推薦したいと思います。

○教育長(浅沼昭夫君) 浅沼ですが、私も同様に教育芸術社を推薦したいと思います。

同様な意見でございます。

○委員(崎山 弘君) 器楽に関して、各学校での生徒の人数、準備されている楽器の有無や、その数も違うので、教科書が同じであれば、各学校で同じ楽器の授業ができるとは限らないでしょう。器楽演奏を行うとしても、楽譜は教科書以外のものを準備する必要もあると思います。そうすると、教科書は音楽一般と同様に、幅広い音楽文化を紹介する素材という意味が大きくなるのではないかなと思います。そういう意味では教育芸術社が優れているかと思います。

また、府中は郷土文化として、和太鼓に親しんでいる子どもが数多くいます。和楽器は、いずれの教科書でも触れていますが、扱い方として、やはり教育芸術社がよさそうな印象を受けました。

以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) 齋藤委員、お願いします。

○委員(齋藤裕吉君) 私も、教育芸術社を推したいと思います。

楽器の基本的な奏法が分かりやすく説明されているというふうに思いました。

それから、何よりも楽譜が見やすいという印象を受けました。

以上です。

○教育長(浅沼昭夫君) 村越委員、お願いします。

○委員(村越ひろみ君) 楽器を演奏するには、やはり正しい使い方とか演奏方法を覚えることが大事だと思うので、やはり教育芸術社のほうが基本奏法が分かりやすく描かれているのではないかと思いますので、そちらを推薦したいと思います。

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、確認をいたします。

音楽器楽につきましては、教育芸術社を採択したいと思います。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○教育長(浅沼昭夫君) それでは、続きまして、美術の説明をお願いします。

○指導主事(坂元竜二君) 美術について報告します。

教科書の発行者は3社です。それぞれの主な特徴についてご説明いたします。

まず、開隆堂出版です。生徒が参考にしやすいよう、制作過程を掲載しているところに配慮が見られる。第2学年及び第3学年の一体化した学習をより強化し、美術作品などの理解や見方を深め、美術のよさ・美しさを味わうなど鑑賞能力を高める内容が充実している。生徒が内発的に主題を設定できるよう、文言に配慮がされている。自己評価の観点、振り返りとして各題材の末尾に示されている。表紙にビニール加工することで破れにくく、汚れず

に長期間の使用に耐え得るつくりになっている。以上のような報告を受けております。

次に、光村図書です。生徒が参考にしやすいように、制作過程の工夫と生徒の考えをつなげた生徒作品を掲載しており、感じ取る力や思考する力を豊かに育てる内容になっている。生徒が内発的に主題を設定できるよう、文言や生徒作品に配慮がされている。また、巻末には学習を支える資料が設けられており、生徒は必要に応じて、みずからの課題に沿って学習を広げたり深めたりすることができるなど、課題解決型の学習がなされている。同年齢の生徒の作品が多く掲載されており、作品制作前の発想や構想を練るために役立つ情報が豊富であり、生徒が作品を通して思いを語ったり話し合ったりする言語活動の充実が図られている。見出しが大きく分かりやすいので、生徒の興味・関心を引き出しやすくなっている。以上のような報告を受けております。

最後に、日本文教出版です。生徒が内発的に主題を設定できるよう、文言に配慮がされている。課題を踏まえた想像することの楽しさを感じるとともに、思考・判断・表現するなどの創造活動の内容が充実している。原寸大の絵画や和紙などを取り入れ、具体的な資料として授業で使いやすくなっており、生徒の興味・関心を高める工夫がある。参考作品などが大きなサイズで見やすい。また、見出しが大きく分かりやすいので、生徒の興味・関心を引き出しやすくなっている。以上のような報告を受けております。

美術については以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） ご質問ありますか。よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、採択の審議に移ります。

委員の皆さんのご意見をお願いいたします。

どうぞ、崎山委員。

○委員（崎山 弘君） 私が中学生のころは、美術はほとんど教科書を使うことなく、作品の作成などが主体の授業だったと記憶しています。しかし、最近の中学校では、成績の評価として、作品だけではなく、鑑賞並びに、その言語表現である感想文なども取り入れられているようです。

今回の教科書採択に関連して、7月、8月の夏休み中に複数の中学校で出勤している先生、何人かの先生に教科書について、意見をアガなしで尋ねてきました。そこで話を聞いた美術の先生も、今までは副教材を使って作品作成をすることが多かったが、なるべく教科書を使うようにする方向性があるとのこと。そうすると、子どもたちが親しみやすいものが使われやすい。特に、府中市は市内に美術館を持っているので、府中市美術館で取り上げられていると、子どもたちも興味を持って入りやすいと思います。

1年生の教科書で、体験しよう美術館という項目を設けて、府中市美術館の公開作成室という、実際に作家が作品を作成しているところを見学できる取組を行っている、それを扱っている光村図書が好ましいと考えられます。

その他、市内の先生方の意見として、光村図書は他社に比べて内容が盛りだくさんで分量が多いという意見がありましたが、別の言い方をすれば、資料が豊富であり、学習の支えになると好意的に捉えていることもあるので、やはり光村図書を推薦したいと思います。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） では、齋藤委員、お願いします。

○委員（齋藤裕吉君） 各社とも共通しておりましたところが、美術とは何かということ  
を教科書の最初の部分で示している、その教科書の考え方をキーワード的に示しているとい  
うところが1つ共通していると思いました。

これは、比較してみますと、開隆堂出版の場合は、あらかずことの学び、感じることの学  
び、他人と違っていること、他人と同じであることというようなことが、最初に大きく打ち  
出されておりました。光村図書につきましては、1年生から3年生まで全て「うつくしい」  
という言葉であらわされていました。それから、日本文教出版では、出会いと広がり、美の  
探求というようなことでありました。まず、こういったところの比較から考えまして、美術  
とは何か、やはり私は美しいということに気がつく、美しいものを求めるというようなこと  
が一番大事なのではないかと思います。このような点から、光村図書を推したいと思いま  
す。

光村図書のガイダンス部分には、朝起きてから夜眠るまでの美術といったように、生徒の  
日常の中に美を求める、あるいは美に気づくというような学習の提起の仕方がなされており、  
大変気に入りました。子どもたちにとって非常に美術が身近なものになると思いました。

それから、府中市美術館の公開制作室が紹介されているということ、これももう1つの推  
薦の理由になります。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 村越委員、お願いします。

○委員（村越ひろみ君） 私は、日本文教出版がよいと思いました。

見出しが、表現・鑑賞・資料と分かれていて、とても子どもたちが使いやすいのではない  
かなというのと、あと鑑賞の見開きの4ページの、その大きな絵画とかにはとても感動しま  
した。生徒の興味・関心を引き出せるのかなと思います。また、調査研究資料の先生の意見  
に、授業でも使いやすいという一言もあるので、日本文教出版を推したいと思えます。

○教育長（浅沼昭夫君） 松本委員、お願いします。

○委員（松本良幸君） どの教科書もとてもきれいで、内容の濃い構成となっていました  
けれども、私は、掲載作品の豊富さであるとか資料解説のバランスがとてもよい光村図書を  
推薦したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） 浅沼ですけれども、小学校で使っているのが日本文教出版の教科  
書でございますので、小中連携の視点からも、教材等で一貫した扱いがなされていることか  
ら採用したいと思います。全体的に作品等に関する解説が詳しくて、美術鑑賞に関しまし  
ても大変優れているという思いを持ちました。

以上であります。

それでは、美術について確認をしたいと思えます。

光村と日文、2社が挙げられていますけれども、過半数が光村図書でございますので、光  
村図書を採択するというところでよろしいですか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、そのようにしたいと思います。

続きまして、保健体育の説明をお願いいたします。

○指導主事（坂元竜二君） 保健体育について報告します。

教科書の発行者は4社です。それぞれの主な特徴についてご説明いたします。

まず、東京書籍です。各学習の冒頭にやってみようを設けており、単元の課題が明確であり、考えてみようでは学習したことを活用して課題に取り組む工夫がされている。また、各章に確認の問題、活用の問題が設定されており、知識の定着や思考力の向上に役立つ構成となっている。学習したことを日常生活に生かせる動機づけがされており、単元ごとにまとめの問題があり、生徒が確認しやすい。絵やグラフ、本文のレイアウトが見やすく、ユニバーサルデザインフォントを採用している。以上のような報告を受けております。

次に、大日本図書です。各学習の冒頭に、きょうの学習課題を設けており、単元での課題を明確にした授業が展開できるようになっている。単元ごとに、きょうの学習課題、考えよう、キーワードが設定してあるので、学習活動を進めやすくなっており、問題解決型の学習に対しての配慮がある。レイアウトなどが新しくなり、重要度の高い資料を目立つように工夫することにより、視覚的に内容を捉えやすくなっている。以上のような報告を受けております。

次に、大修館書店です。実習の報告が明示してあり、応急手当、心肺蘇生法、体力を高める運動の計画など、身につけた知識を活用する場面がある。活用・チャレンジの欄があり、習得した事項を生かし、実際に即して考えることができ、自主的に学習する姿勢や思考力、判断力、表現力などの力が身につくような工夫がされている。側注や図、グラフへの補足説明は、生徒の理解を促すものになっている。有名アスリートの写真やイラストなども中学生にとって親しみやすく、興味・関心を高めるものとなっている。以上のような報告を受けております。

最後に、学研教育みらいです。各章末に探求しようを設けており、課題と課題解決型の方法などが明示してあり、主体的に取り組む、探求的な学習の参考になるように工夫されている。ウォームアップ、エクササイズ、活用しようで学習の流れが示されており、見通しを持って取り組めるように配慮されている。また、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる内容になっている。全体的に本文の文章量が少なくまとめられている。図解やグラフなどは、視覚的に捉えやすいように工夫がされている。以上のような報告を受けております。

保健体育については以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。ご質問等ありますか。

よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、採択の審議に移りたいと思います。

委員の皆さんのご意見をお願いいたします。

齋藤委員。

○委員（齋藤裕吉君） 各社とも大変豊富な資料や写真などを使って、学びやすそうな編集がなされていて、どれを採るか、考えたところであります。

それぞれの特徴を、私が捉えたところを申しあげてまいりたいと思います。東京書籍は、最初に、表紙裏の口絵のところですが、ガイドンス部分で、有名なスポーツ選手やコーチなどを取り上げて、生徒たちの興味・関心を引くような入り方をしておりました。そして、ま

た自然災害の項目の後に、ともに生きるというような項目を立てて、心のケアや避難、きずななどといったことを取り上げております。さらに、章末資料では確認の問題とか学習のまとめというようなものがあって、基礎基本の定着が図られるようになったと思います。そして、また応急手当にかかわる府中市の事例が囲みで載っているというところがありました。

大日本図書につきましては、表紙裏はスポーツの世界大会から入っており、生徒たちの日常にかかわる活動がその後に取り上げられて、スポーツや健康な生活により自己実現を図るというような保健体育の学習の問題が明確に示されておりました。

学研教育みらいでは、表紙裏は保健体育関連の施設や人物、図書の紹介などから入っておりました。生徒たちの身近で親しみやすいところから学習をスタートさせるという配慮がなされていたと思います。そして、またウォームアップ、エクササイズを活用しようというように、学習の流れについて、見通しを持って取り組めるような配慮がされておりました。

次に、大修館書店ですが、表紙裏の口絵のところでは、見開きで2020年のオリンピック・パラリンピックが日本にやって来ると、各競技等にかかわる写真を大きく掲載して、私たちはどのような形で大会にかかわることができるだろうかと、生徒たちに非常に身近で現実的な話題を提起しております。続いて、口絵では、生徒たちの幼いころから中学生の今、そして将来にわたる運動やスポーツとのかかわり方を考えられるような写真資料など、この教科書を手にして、どういう学びを進めていくのかということが分かりやすいような入り口になっております。そして、保健体育の学び方というページでは、最も基本的な学び方として、まず先生の説明をよく聞き、教科書をよく読むということを真ん中に明示しており、その上で課題解決やブレインストーミング、ディスカッション、実習、コンピュータの活用などを挙げております。こういった非常に基本的な考え方がとても大事だというふうに共感をいたしました。そして、またクエスチョン、トライ、チャレンジといったふうな学習の観点の提示やキーワードによる重要事項のおさらいなどができるような系統的な学びが図れるように編集されていると思いました。

以上のように比べてみますと、私は大修館書店を推したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。

続きまして、村越委員、お願いします。

○委員（村越ひろみ君） 私も大修館書店がよいと思いました。

何より、目次の最初に、中学生のあなたにと題しての文章がとてもよくて、保健体育を学ぶ意味などを丁寧に説明しているなと思いました。また、資料も細かく丁寧に掲載されているのと、保健体育は自分の体のこととか生活のこととか身近のことを学んでいくところなので、丁寧な扱いをされている大修館書店がよいと思いました。

○教育長（浅沼昭夫君） 松本委員、お願いします。

○委員（松本良幸君） 保健体育は、スポーツから体の成長、そして健康、安全など、多岐にわたり学ぶ教科になりますので、より分かりやすく、日々の生活に関連した説明のある教科書という視点で読んでみました。その中でも、カラー写真や図解がとても見やすく編集され、市内の各学校で実施している応急救護講習会に役立つ心肺蘇生法をとても詳しく解説したページがあるという点を評価しまして、大修館書店を推薦したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） 続きまして、浅沼です。

私も、大修館を採択したいと思います。

その理由ですが、1つ目に性に関する内容とイラストが充実しておりまして、性情報が過剰になりがちな情報化社会で、中学生に正しい知識とあるべき行動を積極的に示している編集がなされております。

同様に、喫煙や飲酒、薬物乱用などにも充実して内容が編集されております。

また、東京マラソンを例にしまして、スポーツをするだけでなく、そのかわり方について示しています。スポーツをみずからがするのみならず、見る・支える・育てるなど、府中市のスポーツ推進計画とも合致する考え方だと思ひまして、大修館を採択したいと思っております。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 崎山委員、お願いします。

○委員（崎山 弘君） 私は小児科医です。仕事としては、主に病気の治療ですが、教育委員として、子どもに保健体育を通じて一番理解してもらいたいことは病気にかからないこと、つまり疾病の予防です。それも、知識として理解するだけでなく、自分が健康であることを自覚しながら、自分の健康を維持する行動がとれるようになることが重要です。

最近、性感染症の低年齢化が進んでいます。インターネットなどからの誤った情報ではなく、いつでも正しい情報が手元にあるという使い方が教科書にはあると思います。確かに、教科書は授業で使うものですが、知りたいと思ったときが最もよく理解できるときです。病気についての表現、予防しようとする意識を持ちやすいかという視点では、私は東京書籍が最も優れているように考えました。よって、東京書籍を推薦したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、保健体育であります。2つの会社が出されておりますけれども、大修館書店が多数ということで、こちらのほうを採択したいと思います。よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、続きまして、技術家庭科で技術のほうに移りたいと思ひます。説明をお願いします。

○指導主事（坂元竜二君） 技術家庭科、技術分野について報告します。

教科書の発行者は3社です。それぞれの主な特徴について、ご説明いたします。

まず、東京書籍です。多様な実習例に難易度が記載されており、生徒の興味・関心、発達段階に合わせて選ぶことができ、主体的な学習が展開できる内容になっている。私の工夫を新設し、実習例で生徒の工夫が示されている。新しいアイデアが生まれる瞬間が体感できると考えられる。ものづくりなどの実習を通して、知識と技術の習得とともに、態度、技術にかかわる緻密さなどの内容が充実している。全ページにわたって、色覚特性を生かした配色及びデザインの検証をしている。ユニバーサルデザインフォントを採用している。以上のような報告を受けております。

次に、教育図書です。多様な実習例や作業の様子が詳しく記載されており、実習内容が多い。材料加工では、作業の流れが写真で解説されており、分かりやすく、生徒の興味・関心を高めている。また、詳細な作業の様子が写真で掲載されており、正確な作業ができ、基礎的・基本的な知識及び技術を習得することができる内容になっている。淡い色合いで見やす

く、製本部分がかたすぎず開きやすく、使いやすくなっている。以上のような報告を受けております。

最後に、開隆堂です。多様な実習例が用意され、中学生が扱う道具や機械で製作でき、課題を解決する学習過程は生徒にとって考えやすい構成になっており、課題解決型学習の充実を図っている。各学習項目の初めに学習の目標、最後に振り返りがあり、自己評価を振り返ることができるよう配慮している。落ちついた色使いで、製本部分がかたすぎず開きやすくなっており、使いやすくなっている。中学生の生活に即した内容になっており、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深めている。以上のような報告を受けております。

技術分野については以上でございます。

○**教育長（浅沼昭夫君）** 説明が終わりました。ご質問等がありますか。  
よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○**教育長（浅沼昭夫君）** それでは、採択の審議に移ります。

委員の皆さんのご意見をお願いいたします。

松本委員。

○**委員（松本良幸君）** 各教科書とも写真やイラストを多用し、ものづくりや道具の使い方から始まり、植物栽培からプログラミングまでとても分かりやすく編集されていると感じました。

技術科は、実技を伴う学習が多くなると思いますので、道具の安全な使い方也很重要になると思います。これらの点を注視して見ると、作業時のポイント、ポイント解説や道具使用の注意点などが吹き出しで説明されている点、写真と解説文のバランスがとてもよいと思われる点で、東京書籍を推薦したいと思います。

○**教育長（浅沼昭夫君）** それでは、浅沼ですけれども、私も東京書籍を採択したいなと思います。

写真や図版などが豊富でありまして、比較的に分かりやすい編集がなされている。あるいは、ものづくりを絞り込んでいて、これは先生方にとっても指導しやすいのかなということです。また、勤労観や職業観について丁寧に指導できるように工夫がなされている。ちょっと判が大きいのですが、防災手帳等が付記されている特徴を考えますと、これにつきましては東京書籍がよいと考えました。

以上です。

どうぞ、崎山委員。

○**委員（崎山 弘君）** 私は、中学生のとき、技術は美術と並んで苦手な科目ではありました。その私から見て、取り上げられている素材が自分にとっては親しみやすかったり、フローチャートが書かれていて、苦手な人でも一見して分かりやすかったりという意味で、私は東京書籍を選びたいと思います。

○**教育長（浅沼昭夫君）** 齋藤委員、お願いします。

○**委員（齋藤裕吉君）** 技術分野のガイダンスを各教科書で比較してみますと、東京書籍は「技術は夢をかなえるためにある」、教育図書は「人類は技術とともに進化してきた」、開隆堂は、「さあ技術の扉を開こう」、これは言葉だけの問題かもしれませんが、東京書

籍の「技術は夢をかなえるためにある」、これは私にとっては説得力のあるガイダンスの言葉だと思いました。例えば、ここに座りたいというときに、では椅子をつくりたい、椅子のつくり方はどうなのだろう、やはり人々の思いからその技術が生まれていくというような、この発想が共感できました。中身についても共感はありますので、東京書籍を推したいと思いました。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。

村越委員、お願いします。

○委員（村越ひろみ君） 私が中学のころは、技術の授業を女子は受けていなかったと思います。どこをどう見ようかなと思ったのですが、やはり何かものをつくるのに、女子は少しなじみがないところがあったり、ものをつくるのにアイデアを浮かばせるのが大変だったりというのもあったので、そういう点で私の工夫という新設の項目の中に実習例がありますと、そこから少しヒントがもらえて、アイデアが生まれるのかなというのを少し感じたので、東京書籍を推薦したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、採択の結論なのですけれども、技術家庭の技術分野につきましても、全会一致で東京書籍ということでよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） そのようにしたいと思います。

それでは、続きまして、技術家庭の家庭分野の説明をお願いいたします。

○指導主事（坂元竜二君） 家庭分野について報告いたします。

教科書の発行者は3社です。それぞれの主な特徴について、ご説明いたします。

まず、東京書籍です。調理の例が多く、食に対する興味を喚起できることや、プロに聞くのコーナーが分かりやすく、生徒の興味・関心を引き出している。みずから学習活動を進められる内容になっており、生徒が主体的に学習に取り組めるようになっており、身近な材料を使った教材例やエコクッキングの例の消費のあり方や環境などに配慮した生活の仕方に関する、基礎的・基本的な知識と技能を習得する内容になっている。以上のような報告を受けております。

次に、教育図書です。技能、スキルが写真で示されるなど配慮があり、実習などの内容が豊富である。また、課題学習などは高等学校につながる内容になっており、連続性と系統性を重視している。実習例が多く、基礎から応用へとみずから進められるようになっており、これからの生活を検討し、課題を持ってよりよく生活していこうとする態度を身につける内容となっている。発達段階に配慮された内容で、イラストや実習例が多く、視覚的な工夫があり、生徒の興味・関心を高めている、以上のような報告を受けております。

最後に、開隆堂です。最新の情報資料である東日本大震災、片づけ術などを分かりやすく掲載しており、学習した知識と技術が生徒みずからの生活に生かされるよう配慮されている。また、将来にわたって、生活を主体的に営む能力と態度の育成にもつなげていき、課題を考える・話し合うなど、学習の流れが明記され、課題解決型の学習に対応している。また、学習課題の表記が統一されており、学習活動が進めやすく、分かりやすくなっている。小学校からの継続性があり、家庭分野と小学校家庭科の系統性が図られている。以上のような報告を受けております。

家庭分野については、以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。ご質問等ございますか。  
よろしいでしょうか。

（「なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、採択の審議に移ります。  
委員の皆さんのご意見をお願いいたします。  
村越委員。

○委員（村越ひろみ君） 3社あるのですが、そのうちで、私は開隆堂がよいと思いました。

説明にもありましたけれども、学習の目標が示されていて、とても分かりやすいと思いました。また、下段のほうには豆知識がたくさん載っていて、過去・現在の様々な情報にも目を向けることができると思います。調査研究資料の先生の意見を見ても、各地の郷土料理や伝統野菜の記載があったり、全国的に使用できる工夫があること、また共通表示であるごみ分別収集マークを本市でも使っているなど、地域性に配慮があるという点、また課題・考える・話し合うなど、学習の流れが明記されていて、課題解決型の学習に対応していて、学習活動を進めやすく、分かりやすいとの声があります。また、小学校からの継続性があるって、家庭分野と小学校家庭科の系統性が図られているということもあり、小中一貫を考えたときにも有効なものと思われまますので、開隆堂がよいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） 松本委員、お願いします。

○委員（松本良幸君） 私も、開隆堂を推薦したいと思います。

開隆堂の教科書の調理のページでは、大きな写真つきで調理手順が掲載されており、学校での実習や家庭での復習に利用できると思いました。よって、開隆堂を推薦したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、浅沼ですけれども、私は東京書籍がよいと思います。

これは、技術分野と同じ会社で、一貫性があるのかなというふうに考えたことと、技術分野と同様に、図版・イラストが結構分かりやすくできていました。レシピの書き方も秀逸ですね。そういったことで、家庭でも学んだことを実習できるのかなという思いを持ちました。また、男女共同参画社会については、単に夢にあるべき姿を説くのではなくて、学んだことを生かして考えることができるように、教科書の導入ではなくて、章末のほうに配置しているということが特徴的かなと思いました。したがって、東京書籍を推したいと思います。  
以上です。

崎山委員、お願いします。

○委員（崎山 弘君） 4年前の中学校教科書採択の際に、実生活でほとんど家事をしないという心苦しい状況の私が、この教科書ならもう一度家事を含めて、家庭科を学び直してもよいと思って選んだのが開隆堂の教科書でしたが、4年間、私は何も進歩していないことをさらに認識する教科書採択となりました。

冗談はさておき、課題を解決しようという学習をつくりたくなる調理例、欄外に書かれた豆知識の数々など、開隆堂の教科書を再度選んでみようと思います。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、齋藤委員、お願いします。

○委員（齋藤裕吉君） 家庭分野につきましても、私は巻頭の教科書の最初のガイダンスの部分に出てくるキーワードを比較してみました。東京書籍は持続可能な社会を目指してというものでした。教育図書は、年中行事と私たちの暮らしということで、資料が掲載されておりました。開隆堂は、事実に向かって、共生社会に向かって、持続可能な社会に向かって、人や物とかかわりながら学ぼうというようなことでした。この言葉は、それぞれの教科書を編集する考え方というのが出ているのではないかと私は思いました。

この点で、開隆堂は、まず自分が家庭科の勉強をする、家庭分野で勉強するということが、自分自身が自立するためである。そして、また社会が共生社会になるためであって、また時間的なスパンで考えた場合に、持続可能な社会をつくっていくために人や物とかかわりながら学んでいこうと、こういう考え方なのだということがよく伝わりました。

そういうことで、家庭分野の学習を学ぶ意義、これを明確に示して編集されているというような点から、開隆堂を推したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） ありがとうございます。

それでは、技術家庭の家庭分野につきましては、開隆堂出版が多数ということで、これに決めたいと思います。よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） 最後になります。外国語、英語につきまして、説明をお願いいたします。

○指導主事（駒澤文泰君） 外国語について報告します。

教科書の発行者は6社です。それぞれの主な特徴について説明します。

まず、東京書籍です。生徒にとって、身近な学校生活にかかわる題材や命の大切さを考える題材、防災や経済など、社会的な題材が発達段階に応じて取り入れられている。学習項目が全てページに示されて一貫性があり、学習の流れが分かりやすい。また、各単元の最後に適切なアクティビティが設定されており、体験的な学習に配慮されている。将来の夢など、題材に即した内容を自分で考え、英語で発表する活動が取り入れられている。以上のような報告を受けています。

次に、三省堂です。自分の将来では、生命の尊重、他国の文化など、生徒の多様な考えを引き出すことができる内容になっている。導入、繰り返し使う、整理という流れで学習ができ、系統的に文法を身につけることができるよう工夫されている。プラスリサーチのプレゼンテーションや即興会話など多彩な活動が設定されている。また、付録に、学びのまとめや読み物等の教材があり、生徒が自学自習しやすい工夫がなされている。以上のような報告を受けています。

次に、教育出版です。各ページに単語の語形や発音が掲載され、分かりやすく工夫されているとともに、別冊エッセンシャルズが補助教材として補足しており、基本文や語句の定着を図る上で適切な教材である。単元が、ホップ（聞く・話す・書く）、ステップ（読む）、ジャンプ（単元を振り返る活動）の3部構成になっており、知識・技能の習得と活用などの工夫がされている。各学年の学習到達目標の達成度を自己評価できる、キャンドウ自己チェックリストが付いている。以上のような報告を受けています。

次に、学校図書です。外国語の文化・社会・生活についての内容を取り上げ、異文化理解への関心を高める内容になっている。教科書を開くと、左ページが本文、右ページが確実に覚えさせたい文と、それを習得するための活動に分かれ、活動を通して基礎的・基本的な知識・技能の習得を行うことができる。小單元ごとにアクティビティが設定され、聞く・話す・書くの活動が取り入れられている。以上のような報告を受けています。

次に、開隆堂です。生徒の身近な日常生活を英語で表現する題材や日本文化や諸外国とかわる題材を発達段階に応じて設定しており、広い視野を持つことができる。巻末に、聞くこと・話すこと・読むこと・書くことの4ビジョンについて、学習到達目標の達成度を評価するキャンドウがあり、目標の達成度が自己評価できる。マイプロジェクトで、スピーチを中心に様々な形式で発信するなどの技能の活用が工夫されている。また、発表活動などの際の自己評価の観点があり、活動を振り返ることができる。以上のような報告を受けています。

最後に、光村図書です。生徒が職場体験から学んだことなどを英語でまとめて発表する機会や自分の夢や将来への展望について語るなど、言語活動に活用できる題材が設定されている。メール、新聞記事、物語、ノンフィクション、自然科学など多様な題材を取り上げ、生徒の興味・関心を引くようにしている。単元の冒頭に扉のページがあり、聞き取りで概要をつかみ、概要から詳細への流れがスムーズである。また、各単元の最後に学習到達目標の達成度を評価するキャンドウが設定されている。以上のような報告を受けています。

外国語については、以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。ご質問等はございますか。

よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、採択の審議に移ります。

委員の皆さんのご意見をお願いいたします。

崎山委員。

○委員（崎山 弘君） とある先生から、教科書は教材であり、指導法の好みの問題はあるかもしれないが、この教科書でなければ英語の力がつかないとか、この教科書では必要な英語力は育たないということはないと伺いました。

英語の専科の先生方の英語力からすれば、内容は中学生の英語であり、先生から見たレベルとしては、教科書そのものの差は際立って目立ったものはないように感じました。東京都教育委員会が作成した資料を拝見しても、各社で聞く・話す・読むに分けて、教材数やページ数を調査した結果では、それほど大きな違いはありません。ということで、子どもたちから見た親しみやすさなどを、私は考慮してみました。

この教科書が使われている最後の時点に、東京オリンピックが開催されます。オリンピックを題材とした文章を扱っているのは4社ありました。その中では、物語や自然科学分野の文章だけでなく、メール・新聞記事など多様な題材が扱われている。言語活動の場面設定が豊富であり、使える英語を親しみやすくという印象を受けた光村図書を選びたいと思います。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、齋藤委員、お願いします。

○委員（齋藤裕吉君） 小学校で外国語活動の学習が始まりまして、これとのつながりと

いうものをどう受けとめて、中学校ではどのようにそれを生かしていくのかというのは一つの課題ではないかなと私は思います。そういった点で各社の教科書を見てみました。

2つの傾向がありまして、1つは小学校での学び、学習活動の成果を、つながるということ在意図的に示しているような編集の教科書と、初めから単語の読み・書きなどから入っていくような傾向の強い教科書があったと思います。

そういった中で、私はやはり小学校での学びを中学校では受けとめて、それを効果的に生かしていくというような指導が必要ではないかというふうに思っております。そういった点で、私は光村図書を推したいと思います。

一番最初の1年生の教科書の導入の部分で、教科書の中に、小学校ではどういう外国語活動をしましたかという問いかけが、最初の本文のページであります。そして、また、お手紙という、これは小学校の低学年の国語の教科書に出てくるカエルを擬人化した物語があるのですが、教材の中でこの英語版を掲載するなどして、生徒たちがすぐに溶け込んで読めそうな題材、教材を取り入れている、そのほかにも多彩な多様な題材を取り上げているという点でも光村図書がよろしいのではないかと考えました。

以上です。

○教育長（浅沼昭夫君） 村越委員、お願いします。

○委員（村越ひろみ君） 今、齋藤委員も小学校からのつながりということで、光村図書がよいという話があり、私もそれを思ったのですが、三省堂がよいと思います。英語は、実践的に使える英会話がこれから必要になってくると感じています。4年後のオリンピックもあるし、グローバル化されていることもあるのですけれども、先生方の調査研究の資料の先生方の意見にもあるとおり、英会話があって、生徒が実践しやすいという部分もあり、文法が大事という中で、それも身につけやすいということもあるので、三省堂がよいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） 松本委員、お願いします。

○委員（松本良幸君） 各社とも、英語に接する具体的な場面を思い浮かべる内容を考えた工夫をされていると思いました。しかしながら、指導上の大きな違いはないかと思いましたので、報告書等を参考にし、私は光村図書の教科書を推薦したいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） 浅沼ですが、光村図書を採用したいと思います。

他教科に比べまして、それぞれ特徴を押し出して、選択に大変迷うところでもあります。その中で、英語の優れた発音、フェニックスのページは、最初のほうに置いたものから最後のほうにまとめたものなど、どちらが効果的なのか、ちょっと判断が難しいのですが、光村は母音だけを軽く扱っている特徴があります。

また、小学校の言語活動との接続について、丁寧にページを割いていますし、言語活動としては、パートごとに目標分を習得するためのトライットを設けているといった特徴を鑑みまして、光村図書にしたいと思います。

○教育長（浅沼昭夫君） 以上をまとめますと、英語につきましては光村図書が多数ということで、この教科書を採択するということがよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、平成28年度使用中学校用教科書について決定しましたので、改めまして確認をしたいと思います。

教科・国語、種目・国語は光村図書、教科・国語、種目・書写は教育出版、同様に社会、種目・地理的分野は帝国書院、歴史的分野は東京書籍、公民的分野は帝国書院、地図は帝国書院、数学は新興出版館啓林館、理科は大日本図書、音楽一般は教育芸術社、音楽器楽も同様に教育芸術社、美術につきましては光村図書、保健体育は大修館書店、技術分野は東京書籍、家庭分野は開隆堂出版、外国語英語は光村図書ということでありますけれども、ご確認をお願いいたします。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

**○教育長（浅沼昭夫君）** それでは、中学校用教科書につきましては、これで決定といたします。

次に、引き続きまして、特別支援学級用教科書です。学校教育法附則第9条により、検定教科書以外の図書の使用が認められており、毎年採択替えができること、例年どおり、小学校・中学校で、それぞれ調査・研究のための委員会を組織し、教科書選定資料を作成したことの概要説明がありました。この後、小学校特別支援、中学校特別支援を一括して説明いただき、その後に採択を行うということによろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

**○教育長（浅沼昭夫君）** それでは、特別支援学級について、説明をお願いいたします。

**○統括指導主事（国富 尊君）** 特別支援学級用教科用図書について、報告いたします。

府中市には、小学校6校、中学校3校に知的障害特別支援学級が設置されております。各校とも、特別支援学校の教育課程を取り入れた特別な教育課程を編成しております。また、それぞれの特別支援学級に在籍している児童・生徒の発達段階は学級により異なり、その教科指導に必要な教科書についても児童・生徒の実態に合わせて選定する必要があることから、次の観点で教科用図書の調査・研究をいたします。第1は、児童・生徒の障害、特性に応じて学習活動が進められる内容のものであること、第2には、児童・生徒が興味や関心を持って学習に取り組める内容になっていること、第3には文字や表現、挿絵等が効果的に使用されていることや、取り扱う題材等が適切であること、第4には装丁がしっかりしており、体裁が教科書として適切であること、第5には、可能な限り系統的に編集されており、教科の目標に沿う内容を持つ図書であること。以上の観点で、通常の学級で使用している検定教科書、当該学年用の検定教科書の使用が適当でない場合に他学年用の検定教科書を使用する検定教科書の他学年本、文部科学省において試作、編集された文部科学省著作教科書、学校教育法附則9条に基づく一般図書を調査・研究いたします。

各校の調査結果を報告いたします。府中第二小学校は、国語・算数の教科用図書は、附則第9条に基づき、一般図書と検定教科書、書写・生活は附則第9条本、音楽・図画工作及び保健は検定教科書でございます。

府中第四小学校は、国語、書写、算数、図画工作及び生活が附則第9条本、音楽は文部科学省著作教科書、保健は生活と併用でございます。

府中第五小学校は、国語・書写・図画工作及び生活が附則第9条本、音楽は文部科学省著作教科書、保健は検定教科書でございます。

府中第九小学校は、国語が附則第9条本と文部科学省著作教科書、書写・算数・生活が附則第9条本、音楽と図画工作は検定教科書、保健が生活と併用でございます。

小柳小学校は、国語・書写・算数・図画工作及び生活が附則第9条本、音楽が附則第9条本と文部科学省著作教科書、保健は生活と併用でございます。

南町小学校は、国語・書写・算数・図画工作及び生活が附則9条本、音楽が附則9条本と文部科学省著作教科書、保健は生活と併用でございます。

資料5ページからは、著作本と一般図書を教科別に一覧にしたものでございます。

なお、学校名をゴシック体とし、太線で囲んであるものにつきましては、保健と併用中の一般図書でございます。

小学校につきましては、以上のような報告を受けております。

なお、昨年度の採択におきまして、選定する教科書に幼稚園や幼児といったタイトルが入っているものについて、教科書を手にする、受け取った側の心持ちをよく考えながら選定するよう、ご指摘をいただきました。

各校で選定する際の調査研究に際しましては、このことを配慮しつつ、子どもの発達に沿って丁寧に教えていくことができる教科書として効果的であったことから、幼児・幼稚園というタイトルのついた図書を選定してございます。今後の選定におきまして、子どもの発達に沿って、よりよい力をつけられる教科書の内容であるかということとともに、受け取る側の心持ちをよく踏まえて調査・研究するよう、引き続き確認してまいります。また、学校では、題名に幼児等のタイトルの教科書選定理由について、年度初めの保護者会等において写真や模型での図示があり、子どもたちの興味・関心を引き出し、学習に有効な内容であるといった選定の理由を丁寧に説明することを確認しております。

続きまして、中学校特別支援学級の教科用図書について報告いたします。選定の観点等につきましては、小学校と同様となります。

府中第一中学校は、保健体育は附則9条本で、それ以外は検定教科書でございます。

府中第二中学校及び第四中学校は、全てが検定教科書になってございます。

各中学校におきまして、検定教科書を使用する理由といたしまして、適応に困難さがある生徒も多く在籍し、学習内容も高い次元に移動していることなどとしております。

なお、検定本を使用する場合には、生徒の理解度や進路に差があるため、生徒の興味・関心や学習の定着度を十分に配慮した補助使用などを活用し、個々の状況に合った学習指導を行うこととしております。

報告は以上でございます。

○教育長（浅沼昭夫君） 説明が終わりました。何かご質問がありますか。

よろしいですか。

（「なし」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、採択を行いたいと思います。

委員の方々のご意見を受けたいと思います。

崎山委員。

○委員（崎山 弘君） これは、毎年のようにお話をしているところではありますが、やはり1つのクラスといっても、個人個人、それぞれ能力が違いますので、それを一番間近で見ている先生方が選んでくださっている本だということだと思いますので、この本を全て採択することで、私はよろしいのではないかと考えています。

○教育長（浅沼昭夫君） よろしいですか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、特別支援学級用教科書は、小・中学校ともに、各学校において調査した教科書の採択とします。よろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○教育長（浅沼昭夫君） では、これをもちまして、第37号議案「平成28年度使用教科用図書採択について」決定をいたします。

\_\_\_\_\_ ◇ \_\_\_\_\_

閉会

○教育長（浅沼昭夫君） それでは、平成27年第8回府中市教育委員会定例会を閉会いたします。

お疲れ様でした。

\_\_\_\_\_ ◇ \_\_\_\_\_

午後5時26分閉会

以上、会議のてん末を記載してその相違ないことを証  
するため、ここに署名する。

平成27年10月15日

府中市教育委員会教育長

浅沼 昭夫

府中市教育委員会委員

齋藤 裕吉